MONO第42回公演　上演台本

「ぶた草の庭」

作・土田英生

■登場人物

（登場順）

籾山オサム
山岸正己
坂木俊
早川裕香
南ノリト
高台浩宇（ハオユー／ひろたか）
高台暁明（シャオミン／としあき）
南江里奈
川口ナオ
高台美帆（メイファン／みほ）

■場所

瀬戸内海に浮かぶ小さな島。
その中に廃村になった集落があり、現在はヨコガワ病感染者の隔離地区として使われている。
その端に建つ、コミュニティーセンター。

第一場

瀬戸内海らしき場所に位置する小さな島。
そこには昔、廃村になった集落があり、現在は〝ヨコガワ病〟感染者の隔離居住区として使われている。
暮らしているのは十名程。

そこに建つコミュニティーセンター。
上手の一部分だけガラスで覆われている場所がある。
ドアから入ってきても、一応、中の人たちと触れ合うことなく、話せるようになっている。
しかし、そもそもこの病気のことは何も分かっていない。

防護服を着た籾山が立っている。籾山の声はマイクでこっち側に聞こえてくる。
こっち側のテーブルで、紙を見ながら座っているのは山岸。

山岸　え？　そんなに落ち込んでるのか？
籾山　はあ。
山岸　まあ、誰だってショックは受けるけどねえ。
籾山　はい。
山岸　この子、若いもんねえ？
籾山　しかも結婚式の二日後だったらしいですから。
山岸　え？　感染してるって分かったのが？
籾山　はい。念の為にって、夫婦揃って検査受けたらしいんですけど。
山岸　うわ、彼女だけ引っかかっちゃった？
籾山　はい。
山岸　旦那さんは？

籾山　分かった途端、慌てて逃げたって。
山岸　おいおい……。まあ、そうなるけどねえ。うちも奥さんは明らかにそうだったし、裕香ちゃんの旦那なんかひどかったみたいだし。
籾山　はい。
山岸　そっかそっか。まあ、いいよ。来たらさ、皆で頑張って慰めるよ。
籾山　お願いします。病院でも随分と暴れたみたいで。
山岸　（驚いて）暴れた？
籾山　はい。
山岸　その子が？
籾山　ええ。
山岸　（紙を見て）川口ナオ？
籾山　はい。
山岸　え？　うそ？　落ち込んでるんじゃないの？　凶暴な感じなの？
籾山　詳しくは分からないんですけど。要注意人物だって。
山岸　ふえええ……怖いねえ、暴れるのは怖いねえ。
籾山　ええ。
山岸　暴れる？　暴れるのか……。
籾山　はあ……。

山岸は不安そう。自分に言い聞かせるように、

山岸　まあ、だけど女の子だもんね？
籾山　え？
山岸　いやいや、力とかあんまりないでしょ。だから暴れるっていっても……ねえ？

籾山　ああ。
山岸　けど、いるもんねえ？　女の子でも力強い人いるもんねえ？
籾山　まあ。
山岸　いるよ。
籾山　はあ。
山岸　だけど、殴ったりはないよな、さすがに？
籾山　詳しくは分からないんで。
山岸　そう？
籾山　ええ。

間。

山岸　……籾山。
籾山　はい。
山岸　いいんだよ、いいんだけどさ。なんだろ？　お前と話をして思うのはね。ひと味足りないってことなんだよ。
籾山　え？
山岸　会話はキャッチボール。聞いたことあるだろ？
籾山　はあ。
山岸　そういうこと。
籾山　はい。
山岸　投げたら受ける。受けたら投げる。
籾山　ええ。
山岸　お前の場合さ、受けっぱなしな感じなの。投げてくれないわけ。しかもそんなマスクしてて、表情だって分からないんだから。
籾山　すみません。
山岸　おお。

籾山　じゃあ、行きます。
山岸　え？
籾山　いや、船は四十分くらい前にあっちを出航したみたいですから、表の桟橋で出迎えないと。
山岸　いや、それ……。いいけど。そっか……だけど（紙を見て）川口ナオ……。
籾山　は？
山岸　まさか格闘技やってたなんてことはないもんなあ？
籾山　さあ。
山岸　もう少し情報くれよ。
籾山　僕たちも詳しくは聞かされてないんで。
山岸　お前さ、担当だろ？。
籾山　山岸さんもそうだったんだから知ってるでしょ？　詳しい資料は降りて来ないんです。
山岸　そうだけどさ……。

と、下手から坂木が入ってくる。

坂木　あ、籾山……ごめんごめん。着替えようと家に寄ってたから遅くなっちゃった。
籾山　いいんです。
坂木　どうなってるの？
籾山　一応、大体のことは山岸さんに伝えました。
坂木　もう一回頼むよ。山岸さんじゃ不安だし。
山岸　なんだよ、それ。俺が一通り聞いてるから大丈夫だよ。
坂木　ですか？……けどさ、不公平だよな。他のメンバーはブラブラしてるのに、俺と山岸さんだけ、毎日毎日、ここで籾山と報告会。

籾山　仕方ないでしょう。二人共、元保健局の人間ですから。
坂木　……。
籾山　え？　でしょ？
坂木　そうだけど。なんか籾山って隙間がないよな。
籾山　は？
山岸　愛想ないんだよ、受け答えに。
籾山　すいません。
坂木　元局員だとしても、俺たちも今はただの患者なの。
籾山　ええ……。
山岸　まあ、俺は嬉しいけどね、いまだに仕事してるみたいな気がして。
坂木　はあ。……もう着くの？　新しい人たち。
籾山　ええ。
山岸　四十分くらい前に向こうを出航したって。

坂木は嬉しそうに歩き回りながら、

坂木　じゃあ、そろそろですねえ。（笑顔で）フフフフ、全員女性。
籾山　はい。
坂木　いやあ、嬉しいよ。変な意味じゃなくてさ、ほら、ここ男性比率高過ぎたから。
籾山　ああ。
坂木　それがいきなり三人も。
籾山　一人は南さんの奥さんです。
坂木　うん、知ってるけど。
籾山　ですよねえ。
坂木　そういう意味じゃないんだって。バランスだよ、バランス。
籾山　ええ。

坂木　今までさ、ここにいた中でさ、元気な女性って裕香さん一人だろ？
籾山　はい。
坂木　あの人、きっと普通の場所にいたら、目立たない方だと思うんだけどさ、ここではすごいもん、存在感。
籾山　ああ。
坂木　俺もあの人に会うとすっごい嬉しいし。一等星に見えちゃうっていうか。あんな裕香さんでも光り輝いちゃうんだよ。
山岸　坂木、ひどいよ。あんな裕香さんでもって……。
坂木　だって、あの人、元々暗いでしょ？　性格。
山岸　そう？
坂木　星で喩えたら一等星って雰囲気じゃないですよ。せいぜい五等星っていうか。
山岸　暗いな。
籾山　五等星って、今は肉眼では見えませんよね。
坂木　それでいいの。なのにだよ。五等星のはずの裕香さんがさ、ここではね、勝手に輝きを増していっちゃうの。一等星に見えちゃう。
山岸　お前、いい加減にしとけよ。
坂木　事実じゃないですか。裕香さんの趣味知ってます？　段ボールを細かくちぎることなんですよ。そんな趣味で明るい人っていますか？
山岸　さあ。

坂木は独り言のように、

坂木　いやあ、けどさ、今回、女性が増えれば……きっと裕香さん、光が鈍るね。また五等星に戻るね。

山岸　……。

籾山はメモを見て、

籾山　あの、僕、行きますけど……もう他はいいですよね？
坂木　え？
籾山　牛乳の配給を増やしてくれっていうのは聞きましたので。
坂木　あ、「オシマイ」の手配は大丈夫だよね？
籾山　「オシマイ」……え？　誰が？
坂木　いや、三人とも危ない。
籾山　え？　三人？
坂木　名波のおじいちゃん、トランさん、チュッソムさん。
籾山　ええ？　残ってた年配の人、全滅ですか？
坂木　うん……。（山岸に）山岸さん？　伝えてないんですか？
山岸　あ、ああ……。
坂木　一応、ここのリーダーなんだから。ホント役に立たない。
山岸　最後に伝えようと思ってたんだよ。
坂木　籾山、帰るとこじゃないですか。
山岸　……。
坂木　普通はそれを最初に伝えるでしょう？　牛乳なんて後でいいんですよ。
山岸　俺は大事なものは最後に伝えるタイプなの。
坂木　どんなタイプですか。
山岸　……ライオンタイプ？
坂木　何を言ってるんですか。
山岸　お前あれだろ？　シマウマタイプってことだろ？
坂木　美味しいものを食べる順番とか、そういう話じゃないんですよ。

籾山　坂木さん、で、三人とも危ないって、本当なんですよね？
坂木　ああ。
山岸　全員さ、三週間くらい前から、記憶障害も相当ひどくなってたしな。
坂木　うん。身体の斑点、間違いなく紫になってるって。
籾山　あら、じゃ、二、三日のうちですね。
坂木　うん……。
籾山　うわあ。急いで手配しないと。
坂木　うん、頼むよ。
籾山　（メモをしながら）だけど……亡くなるのって、高齢者ばっかりですよねえ？
坂木　うん。……ま、それが俺達にとっては救いだったりするんだけど。
籾山　え？
坂木　いや、ただの慰めだってことは分かってるよ。だけど、まだ自分は大丈夫なのかなって思えるっていうか。
籾山　（あっさりと）大丈夫ですよ。そのうち、いい薬できますよ。
坂木　あ、うん。
籾山　……。
坂木　いや……いいことを言ってくれてるのは分かるんだけど……どうもお前の言葉は響かないんだよ。俺達にとっては生き死にの問題なんだから。
籾山　すみません。
山岸　でもさ、段々若くなって来てるじゃないの？
坂木　え？
山岸　……ヨコガワ病だって診断されるのだってさ、最初は高齢者だけだっただろ？　それが今回来るのなんてさ、二人は二十代だし。

坂木　だから僕らも死ぬってことですか？
山岸　そうじゃないけど……。
坂木　……。
山岸　いや、うん。
坂木　……なんか他人事なんですよ。
籾山　じゃ、僕、ホントそろそろ行かないといけないんで。桟橋まで迎えに行って、ここまで案内してきますから。
坂木　籾山、お前も気をつけてな。
籾山　え？
坂木　感染だよ。こうやって世間の様子を教えてくれて、俺達の面倒見てくれるの、お前だけだし。
籾山　局員ですから。
坂木　いや、えらいよ。……皆逃げる仕事だし。俺だってイヤだったもん。だけど、山岸さんが命令するから仕方なくやってて……結局、感染しちゃったから。
山岸　……。
坂木　だから気をつけてってこと。
籾山　はい。
坂木　（笑って）あ、山岸さん、違いますからね。
山岸　は？
坂木　今、気にしたでしょ？
山岸　何が？
坂木　山岸さんのせいで僕まで感染したとか、そんなことが言いたいんじゃないんですよ。籾山に気をつけろって伝えたいだけで。
山岸　分かってるよ。
坂木　じゃあいいですけど……一瞬変な顔したから。
山岸　（笑って）してないって。
坂木　ホントですか？

山岸　うん。俺のせいだなんて思ってないって。
坂木　……え？
籾山　大丈夫です、頻繁に消毒してますから。ぶた草だって家の周りに結構生やしてますし。
山岸　アレ、迷信だぞ。
籾山　まあね。じゃ、失礼します。
坂木　……。

と、籾山はスイッチを切って出て行く。
山岸はノートをめくったりしながら、

山岸　えっと……家の準備も済んでるし……やることないよな？
坂木　え……ああ。
山岸　南江里奈は……南さんの家だし。この、美帆さんという子は川口ナオと……あ、でも暴れるとしたらまずいか……。
坂木　ん？
山岸　なんかすごいショックを受けてて。新婚だったんだって。で、暴れる可能性あるって。
坂木　ああ……。

坂木はうわの空。山岸は笑って、

山岸　だけどさ、南さん、今頃どんな気持ちだろうな？
坂木　え？　いや、知りません。
山岸　きっとソワソワしてるよ。そりゃ、そうだよな。奥さんがここにくるなんて……どうなんだろ？　嬉しいのか？　いや、病気になった訳だし嬉しくないか？　でも、会えるんだもん、嬉しいよなあ？

坂木　……。
山岸　どうした？

坂木は無理に笑顔を作って、

坂木　……全然いいんですけどね。
山岸　ん？
坂木　いや、あの、さっきの。
山岸　さっき？
坂木　いやあ、ほら、山岸さんのせいで、僕が感染したとか。
山岸　は？
坂木　さっき、そういう話してたでしょ？
山岸　おお……。
坂木　そしたら、自分のせいだと思ってないって、山岸さん……。
山岸　え？
坂木　そう言ったでしょ？　はっきり。
山岸　ああ……。
坂木　（笑って）一応、山岸さんのせいですから。
山岸　……は？
坂木　責めてるんじゃないんです。けど、僕がヨコガワ病に感染したのは、まあ、山岸さんのせいだってことですよ。
山岸　（驚く）ええ？
坂木　はい……。
山岸　だけど、ええ？
坂木　それは、はい。
山岸　やっぱりお前、そう思ってたの？
坂木　思ってたとかじゃなくって。事実でしょ？
山岸　だけど……。

坂木　こんなところに物資を届けたりする係は絶対にイヤだって言ってたのに、山岸さんが命令したから。
山岸　仕方ないだろ。俺だって上から命令されてたんだから。俺たち保健局の人間だったんだし。
坂木　そうですよ。だから責めてはないんです。
山岸　……どういう……？
坂木　違うんですよ。山岸さん、あまりにもあっさりと断言するから……「俺のせいだと思ってない」って。
山岸　だって、俺のせいじゃないって、お前、ずっと言ってくれてただろ？
坂木　そうですよ。だけどあれはね、最初、山岸さんが「坂木が感染したのは俺の責任だ」って、めちゃくちゃ気にしてたでしょ？何度も俺に謝って。もういいっていうくらい謝って。だから僕も「山岸さんのせいじゃないですよ」って言ってあげてたんです。
山岸　ん？
坂木　分かるでしょ？
山岸　本心は違ったってこと？
坂木　いや、本心でしたよ。
山岸　じゃあ、俺のせいじゃないんだよな？
坂木　そうですけど、違うって断言されちゃうと、僕としては「山岸さんのせいです」と言うしかなくなるというか。
山岸　……え？
坂木　だからね、山岸さんは自分のせいだと思っておいて下さい。責任を感じてて下さい、常に。
山岸　おいおい。
坂木　いいから。『山岸さんのせいで、僕は感染した。あんたのせいで僕は病気になった』。

山岸　待ってくれよ。
坂木　黙って！　で、そう思っててくれたら、僕は山岸さんのせいじゃないって思いますから。
山岸　……。
坂木　それでいいでしょ？
山岸　ややこしいよ。
坂木　そういうもんなんですよ。
山岸　そりゃ、少しは責任感じてるけどさ。
坂木　はい。
山岸　……ええ？　俺のせいでお前は感染したってことか？
坂木　違いますよ。山岸さんのせいじゃないですよ。
山岸　は？　違うか、だったらいいけど。
坂木　もう！
山岸　え？
坂木　山岸さんは違うと思っちゃダメなんです。お互い譲り合いなんですって。
山岸　はあ？
坂木　痛み分けです、痛み分け。もうやめましょうよ、こんな話。
山岸　いや、お前がさ……。

下手から、裕香、南入ってくる。南は段ボールを抱えている。

裕香　こんにちは。
山岸・坂木　おお。
裕香　籾山くんの報告終わったの？
坂木　はい。
裕香　ご苦労様。
坂木　おお、やっぱり嬉しい。本当は五等星なのに。

裕香　なに言ってるの？……ねえ、あの人達は？　浩宇さんと暁明さん。
山岸　いや、今日はまだ見てないけど。
裕香　ええ？　先にここに来るって言ってましたよねえ？
南　まだ、探してるんでしょう。
坂木　なんですか？
裕香　これ、どうします？
南　取り敢えず、そこに置いときましょ。
裕香　だけど下ごしらえは私の家でやりますから。
山岸　後で俺が運ぶよ。
裕香　うん、お願い。

南と坂木は目を合わす。
段ボールを置く南。

坂木　なんですか？　それ。
裕香　山菜をね、採って来たんです。
坂木　山菜？
山岸　いっぱい取れた？
裕香　うん。
坂木　なにするんですか？
裕香　いや、だって新しい人たち来るんでしょ？　だから鍋でもしようと思って。まあ、歓迎会よ。
坂木　歓迎会？
裕香　うん。
坂木　歓迎会って表現、おかしくないですか？
裕香　え？
坂木　いや、やるのは素晴らしいと思いますけどね。

裕香　じゃ、なんて言うの？
坂木　え？
裕香　なんて言うのよ？
坂木　さあ……。
裕香　（怒って）あのね、歓迎することじゃないことくらい、私だって分かってるわよ。
坂木　ああ。
裕香　でもさ、逆に聞くけど、どうするの？　何にもせずに暗い雰囲気で迎え入れるの？
坂木　そんなことは言ってませんけど。
裕香　来る人たちは落ち込んでる。いきなり感染したって言われ、船に乗せられ、こんな島で隔離されちゃうの。だったら、せめて私たちは明るくしてさ、ここはそんなに悪い所じゃないよって思わせてあげた方がいいでしょ？　違うの？　どうなの？
坂木　僕はどうしてこんなに怒られてるんですか？
裕香　歓迎会がおかしいっていうから。
山岸　裕香ちゃん落ち着いて。坂木もやるのは素晴らしいって言ってるんだから。
裕香　うん。……なんだろ？　坂木さんの言葉って、なんか勘に触るんだよねえ。
坂木　いいですよ。もうすぐ光が鈍る人に嫌われても、全然堪えませんから。
裕香　なに言ってるの？

南は辺りを見回して、

南　えっと……それで？
山岸　え？

南　いやいや……何時頃なのかなと……。
坂木　はいはい。いや、もうね、籾山が桟橋に迎えに行きましたよ。
（冷やかすように）新しい人たちを。
南　そうですか……いやあ、そうですか……。
裕香　（笑って）山菜一緒に取ってても、完全にうわの空なの、南さん。
山岸　そりゃ落ち着きませんよねえ？　一年ぶりでしょ？　奥さんに会うの。
南　えっと……ん？　え？　一年、あ、はいはい、そうか、一年ぶりです。
坂木　やめて下さいよ。記憶おかしくなったかと思うじゃないですか。
南　は？
山岸　坂木、不吉なこと言うなよ。
坂木　だって……。
南　いや、違うんだよ。ここは通信手段も完全に断たれちゃってるだろ？　手紙すらダメだし。だから本当にあれ以来だなって。
裕香　だけどさ、すごい偶然よねえ？　奥さんが来るなんて。
南　どんな顔して会ったらいいんですかねえ？
裕香　私たちを気にせず、熱烈な再会を果たして下さいよ。
南　いや、けどね……僕から感染したとすると……申し訳ないっていうか。
裕香　違いますよ。一年もあったんですから、タイムラグが。
山岸　分かってないこと多すぎるからなあ、この病気。
裕香　万が一そうだとしても、夫婦なんでしょ？　会ったら喜んであげる。それが正解ですよ。
南　はあ。
坂木　いやいや、南さん……そういう場合はね、申し訳ないって思

ってた方がいいかも知れませんよ。そしたらね、奥さんは絶対に南さんを責めませんから。

南　え？

坂木　そういうもんなんです。

南　どういう意味？

山岸　あ、なんかね、こいつ独自の理屈みたいで。

坂木　違いますよ。

山岸　裕香ちゃん、カーテン開けて。

裕香　うん。

坂木　……うわ、とっても自然な、「裕香ちゃんカーテン開けて」。しかもそれに続く裕香さんの自然な「うん」。

山岸　はあ？

坂木　長年連れ添った夫婦みたいですよ。

裕香　馬鹿なこと言うのやめてよ。

と、裕香が窓まで行って、開ける。

のどかな景色。犬が吠えるのが聞こえる。

南　（坂木に）ナッツ、ペコ、ハナ。

坂木　ああ。

裕香　外、気持ちいいよ。ホント、いい天気で。

他　……。

裕香　山菜採ってたらね、おかしな気分だった。ただ好きで田舎暮らししてるような。病気でここにいるんじゃなくって。

山岸　うん……そう思えるなら、それでいいんだよ。

山岸も何となく立って裕香の近くに、

山岸　だろ？
裕香　うん……。
坂木　うわあ、似合う。二人、似合い過ぎ。
山岸・裕香　え？
裕香　坂木さん、いい加減にして。

と、二人は離れる。

坂木　ええ？　噂を流してるのは僕じゃないですよ。
裕香　はあ？
坂木　ねえ、南さん。
南　ああ……。
裕香　誰が言ってるの？
南　浩宇さんと暁明さん。二人はできてるって断言してました。
裕香　あの人たちの言うことなんか真に受けないで下さいよ。ホント、あの二人には困るわ。
南　え？　面白いじゃないですか。僕、好きですよ、二人共。
裕香　だけど今だって戻ってないし。
坂木　どっかで掴み合いの喧嘩してるんじゃないですか？
南　するよねえ？　すぐにするよねえ？
山岸　あれ、困るよなあ。いきなり始めるだろ？　俺さ、ホント、怖いんだよ、あれ。
裕香　うん。
坂木　キッカケどこなのか分からないですもんね？
山岸　そうなんだよ。喧嘩だと思うと笑い合ってたり、笑ってると思うとつかみ合い始めたり。
坂木　意味不明なんですよね、スイッチ。まあ、言葉も時々意味不明だし。

山岸　そうそう。
裕香　あれってさ、地域性なのかな？
坂木　どういうことですか？
裕香　ほら、二人共、ガンジビトでしょ？　日本人じゃないから。
山岸　それは関係ないんじゃないの。
裕香　うん……。
坂木　どこまで行ってるんですか？
裕香　日和山まで行くって。
坂木　もう来ちゃいますよ、新しい人たち。
南　やっぱりどっかで掴み合いしてるんですよ、「ハッ」って。

皆は笑う。

裕香　さてと、鍋の準備しないと。山岸さん。
山岸　お。あの箱を裕香ちゃんの家に運べばいいの？
裕香　うん。

二人は立ち上がる。

坂木　じゃあ……俺も、もう一回家に戻って着替えてこよっかな。
裕香　（笑って）若い女の子達が来るから？
坂木　まあ。あっちのジャージの方がいいんですよ、僕。
南　え？　いつもそれじゃないの？
坂木　二着同じのがあって、僕の中では分かれてるんです。普段着とお洒落着に。
山岸　お前、さっき着替えて来たって……。
坂木　それが……間違えてたんです。あっちがお洒落着の方だったんですよ。こっちはこの裾がヨレっとしてて。

南　いやいや、間違えるくらいなら一緒じゃない。

下手から浩宇と暁明が入ってくる。

暁明　遅くなったでねえ。

他　おおお。

浩宇　あれ？　わちらの方が遅かったでの。

南　早くしないと。もう、来るみたいですよ、新しい人たち。

暁明　ほら、だで言ったんだわ。

浩宇　何を言ってってっ？

暁明　早く戻ろうって、わち、散々言ったで。

浩宇　いつ？　いつ言ってってん？

暁明　何回も言ったで！

二人は険悪な雰囲気。

山岸　……ちょっと、やめて下さいよ。

浩宇　おい？　言え。いつ言ってってん！

暁明　何回も何回も言ったで！

浩宇　はっ！

暁明　はっ！

周りはハラハラするが、

浩宇　（笑って）言ったでの？

暁明　わいわい。

と、笑い合う。

坂木　大丈夫なヤツでした。
南　……どうでした？　収穫ありました？
浩宇　まあね、ほら、これ。

浩宇は袋を見せる。

南　なんですか？
浩宇　結構、集まったでの。
暁明　だで、そんなもん食べれんって。
裕香　だから、なんなんですか？
暁明　……なんかね、虫。
裕香　（驚いて）虫？
暁明　うん。
浩宇　ツノギ虫っていうんだけど、うまいんだわ。わち、時々とって食べとるで、オヤツ代わりに。
裕香　うわあ、イヤだ。絶対に無理ですから。
浩宇　本当はね、ピーナッツがあるといいで、一匹ずつ身体の中に詰めて、油で揚げるとかなりいけるで。
山岸　言葉だけで気持ち悪いですよ。
坂木　下ごしらえ大変そうな割に、全然美味しそうじゃないですもん。
浩宇　栄養価も高くて、美味いでの。
暁明　言ったでないか。みんな嫌がるんだわ。
裕香　虫という時点で無理。
南　え？　あれですか？　浩宇さんの家っていうか、その、元の国では食べてたとかですか？
浩宇　違う違う。日本に来てからだわ。

南　ああ……。
浩宇　南シナ戦争の後でガンジ山に住み着いたでの、わちや暁明の先祖が。色んな国から来たで、最初は食べるもんもバラバラだったでの。
南　はい。
浩宇　で、ガンジ山一帯でツノギ虫は食べ始めたらしいで。だで、暁明の家でも絶対に食べとったはずだで。
暁明　食べとらんで。
浩宇　食べとったって。
暁明　お前の勘違いだで。
浩宇　トランさんに聞いてみるべき。あの人、詳しいで。
坂木　無理ですよ。もう死にかけみたいですから、あの人。
浩宇・暁明　え？
山岸　ずっと記憶障害、ひどかったでしょ？
浩宇　うん……。
南　斑点も完全に紫になってるって。
暁明　うわ、じゃ、まあ、死んでまうで。
坂木　名波さんもチュッソムさんもそうですよ。
暁明　え？　とうとうわちらだけになってまうのか？
南　新しい人も来るんですから。
坂木　それもいいことじゃないんですけどねえ。
暁明　うん……。

一瞬、皆はしんみりするが、

裕香　ほら、動きましょう。浩宇さん、とにかく虫はダメですから。
浩宇　じゃあ、これどうするんだ？
裕香　知りません。

浩宇　全部、まだ生きとるし。（笑って）噛まれるとすっごい熱が出るで。
他　ええ？
裕香　なんか、身体が痒くなってきちゃったじゃないですか。
暁明　山に放して来いよ。
浩宇　イヤなこってん、苦労してつかまえたのに。
裕香　山岸さん、じゃあ、運ぶの手伝って。
山岸　うん。

と、裕香と山岸は段ボールのところに、

坂木　よし、家に戻ろ。
南　着替えるの？
坂木　南さんも格好よくしないと。奥さんとの再会なのに。
南　おお。

全員が場を立ち去る雰囲気になる。

浩宇　（段ボール箱を覗いて）山菜か？　おお、タンタラ草がある でないか。これは一緒に炒めるべき。
裕香　べきじゃないですよ！　虫となんか合いませんから。しかも ね、鍋の予定なんです。
浩宇　うん。
裕香　今日の料理長は私です。
暁明　もう、お菓子代わりに一人で食うだわ。
浩宇　ハハハ……なんだ、その言い方は。
暁明　誰も食わんで、一人で食うべき。

一瞬の間。

浩宇・暁明　はっ！

と、二人はいきなり掴み合う。

他　ああ！

坂木　来ました！　意味不明なスイッチ来ました！

南　ダメだって、ほら！　離れて。

山岸　ああ、ああ、びっくりした……。

二人はあっさり引き離される。

浩宇　暁明が……。

暁明　違うで。

浩宇　違わんで。

暁明　お前だで。

浩宇　お前だでの！

暁明　……（笑って）わちだでのう？

浩宇　わいわい。

二人は笑い合う。

坂木　ほっとくべきなんですよね。

他　うん。

と、みんなが再び動き出したとき、上手のドアが開いて籾山が入ってくる。

山岸　え？　あれ？　桟橋に行ったんじゃないの？
籾山　いや……来ました。
坂木　え？　もう？
浩宇　新しい人？
籾山　ええ。

全員、身体ごときっちりと籾山の方を向く。

籾山　うわ、全員に見られると……迫力感じますねえ。
山岸　だけど早くないか？
籾山　いや、それがね、途中まで坂を下ったところで会ったんです……三人で登って来てたみたいで。船、早く着いたって。
裕香　で？　その……。
籾山　ああ。ここまで案内して……今、裏に回ってもらってます。配給置き場の方から。
坂木　あんなところから？　そっか……あそこしかないか。
籾山　だから、誰か行ってあげて下さい。
裕香　私、行くよ。ほら、女性の方が安心するでしょ？
籾山　お願いします。
裕香　（山岸に）いってくるね。
山岸　おう。

と、裕香が下手から出て行く。

暁明　おお、とうとう来たでのう？　そうだ……南さん。
南　ああ、そうなんです。
浩宇　ああ、会えるわ、奥さんに。

南　そうなんですよ。籾山君、どうだった？
籾山　は？
南　どんな様子だった？
籾山　とても落ち着いてて……色々と気を配ってくれて。
南　外面がいいんだよね、あいつは。
山岸　あの子はどう？　……暴れた？
籾山　え？　あ、いや。
山岸　力、強そう？
籾山　さあ。全く喋りませんから。
山岸　そう……。
籾山　じゃあ、あの……僕は……これで。
山岸　おお。
浩宇　歓迎会するで。鍋だわ。
籾山　え？　いや、僕は……。
浩宇　（笑って）籾山君はこっちには来れんでのう。
暁明　（笑って）わいわい。
籾山　……じゃ、家のこととか、山岸さん、坂木さん、お願いします。
山岸　うん。
坂木　分かった。
籾山　また、明日、来ます。
山岸　ご苦労様。

皆も口々に挨拶。
籾山は出て行く。
全員、自然と下手に身体が向く。

坂木　ようし。いい印象を与えてあげないとね。いい場所だよって

いう。

他　うん……。

入口をふさぐ形に一列になる。

坂木　これ、おかしくないですか？

南　入ってきて、驚くね。

暁明　そうだわ。もっと離れんと。

今度は不自然に離れて立つ。

南　あ、どうしよ？

坂木　（笑って）南さん、落ち着いて。

南　（高い声で）落ち着いてますよ。

坂木　声、うわずってるじゃないですか。

暁明　いやあ、けど、第一声はどうしたらいいんだ？　『ようこそ』とかか？

坂木　観光地じゃないんですから。あんまりウェルカムな雰囲気だとおかしいですよ。

浩宇　『おかえりなさい』は？　これからここが自分達の場所になるんだで。

暁明　初めて来て、おかえりはないで。

浩宇　そうか。

坂木　『いらっしゃい』でいいんじゃないですか。何気ない感じで。

他　おおお。

山岸　あ、けど……一人、すっごい落ち込んでる子がいますから、皆、気をつけて下さいね。

浩宇　どういうこと？

山岸　いや、なんか暴れる可能性があるって。
他　ええ？
暁明　……暴れる？
山岸　詳しくは分からないんですけど。籾山からの情報で。
南　早く教えといて下さいよ。
山岸　ああ。
坂木　さっき籾山に聞いてたの、それですか？
山岸　うん。
浩宇　暴れるって……怖いでのう。
暁明　わちも。
坂木　あんた達が言います？
浩宇・暁明　ん？
南　だけど……どう気をつければいいの？
山岸　あんまり、刺激を与えないように、
坂木　大きな声とか出さないように、ソフトに小声で。
暁明　結局、優しい笑顔で迎えてあげるべき。
他　おおお。

皆は自分なりに仏のような笑顔を作って待つ。
と、裕香が入ってくる。

裕香　（外に）ここです。

裕香は皆を見て、

裕香　わ……なに？　気持ち悪い。
他　え？
裕香　ニヤニヤして、しかも不思議な位置取りで。

山岸　（小声で）いや、あんまり囲むのもアレだと思って。

と、少しだけ位置を変える。

裕香　しかもさ、なんで小声なの？

他　……。

坂木　（小声で）入ってきませんよ。

浩宇　（小声で）だね。

裕香　あれ？　（外に顔を出して）さ、遠慮せずに。皆、いますから。

外で江里奈の声。「じゃ、ほら、入りましょうよ」

再び江里奈の声。「ほら」

南　（小声で）あの声、妻です。

他　（小声で）ああ。

美帆の声。

「もう仕方ないでしょ？　一緒に行こ、ね？」

裕香　（外に）ほらほら、早く。

江里奈の声「私、入るからね」

江里奈　（入ってきながら）失礼します……。

他　……。

江里奈は浩宇と目が合う。

それから全員を見回す。
南を見て微笑む。

南　……おう。
江里奈　あなた……。
他　（小声で盛り上がって）あああああ。
江里奈　（恥ずかしそうに）え？　なんですか？
山岸　（小声で）奥さん？
南　（小声で）ええ……。

全員、小声で挨拶。

裕香　だからなんで小声なのよ。普通に喋ってよ。
他　おお。
坂木　（江里奈に）ほら、どうぞ。旦那様の隣に。
江里奈　すみません。

江里奈は南の隣に。

裕香　（外に愛想良く）ほら、そこの二人も、来てって。大丈夫だから。
江里奈　（南に）一人、落ち込んでて。
南　うん。

外で美帆の声。「ほら。」
美帆がナオを無理矢理押すようにして入ってくる。

美帆　どうも。あ、すみません、この子がいやがって。

他　……ああ。
山岸　（小声で）川口ナオ……。
坂木　ああ。

緊張した間。

裕香　山岸さん。
山岸　えっと……ようこそ。違うか、いらっしゃい。
美帆　はあ。
坂木　大変だったでしょ？
南　だけど今日は天気いいから。船も、そんなに、だろ？
江里奈　あ、うん。
裕香　（明るく）あ、じゃあ、自己紹介でもする？
坂木　え？　僕たち……じゃなくて……。
裕香　新しい皆さんからでいいんじゃないの。
山岸　だね。

他も賛同して座ったり。

南　お前からしたら？
江里奈　（笑って）なによ、えらそうに。
南　えらそうになんてしてないけど。
裕香　なんか、いい感じ。
他　うん。
江里奈　あ……初めまして。私、南江里奈です。
他　おお。
江里奈　分かってらっしゃると思いますけど、この人の妻というか、
　なんというか……。

南　なんというかってなんだよ？
江里奈　なんだか、緊張しちゃって。
裕香　（笑って三人に）この人たちもですよ。じゃあ、ほら……あなた。
美帆　私ですか？
裕香　そう。
美帆　えっと……タカダイミホです。
他　おお。
暁明　え？　ガンジビト？
美帆　はい。
暁明　おおお。
裕香　ガンジビトって、全員、名字が高台だし、分かり易いよね？
南　昔は名字なかったんでしょう？
坂木　あれでしょ？　ガンジ山の周辺が全部高台だったから、それで名字が高台になったんですよね？
暁明　ああ、ひどい話だわ。

と、なんとなく笑う。

美帆　……え？　何ですか？　ここって、そういう、差別的なのとかあるんですか？
裕香　（慌てて）ちがうちがう。
山岸　ないよ。だってさ、この二人もそうだし。

浩宇と暁明が頭を下げる。

美帆　あ、そうなんですか。
浩宇　ん？

浩宇はじっと美帆を見ている。美帆は気づいて、

美帆　え？

二人はじっと見つめ合って、

浩宇・美帆　はあ？

浩宇　だわな？　メイファン、メイファンだわな？

美帆　えええ？　ハオちゃんでないの？

浩宇・美帆　おおおおお。

手を取り合う二人。

暁明　ハオちゃん？

美帆　なんで？

浩宇　なんでって……わちは一年前の隔離でここに送られたで……。

美帆　ここだったのかあ？　別のとこだって思っとったで。

坂木　え？　どういうことですか？　知り合い？

浩宇　あの、いやあ、あれだわ。この子はね、わちの姪。

他　ええ？

浩宇　元奥さんの、お姉さんの、子供。

美帆　わちにとってはおじさん。仲良かったでねえ。

暁明　そうなの？

浩宇　うん……まあ、わち、五年前に別れとるで、最近はメイファンにも会っとらんかったけど。

美帆　（隣の人に）家族はメイファンって呼んどって。外ではミホで通しとるんです。

暁明　分かるで。わちも親しい人にはシャオミンって呼ばれとったで。
坂木　あれ？　浩宇さん、五年前？　じゃ、病気が原因の離婚じゃないんですね？
浩宇　違うでの。（美帆に）いやあ、それにしても驚いたで。
美帆　それはわちの方だわ、良かったで。知り合いおって。
浩宇　そっか。メイファン……アレか……。
美帆　そうだで。ヨコガワ病だで、わちも。
浩宇　お母さんは？　元気？
美帆　さあ……感染したって分かってから一回も会っとらんで。ていうか、親戚全員、すっごい冷たかったで。おばちゃんもひどかったでのう。
浩宇　ああ、あいつ？　あいつは自分のことしか考えとらん女だで。
（皆に）わちの元妻。
美帆　ハオちゃん、別れて正解だったわ。
浩宇　メイファン、昔から言っとったでのう。
美帆　でしょ？　別れるべき。
山岸　ちょっと……まずはほら、全員の自己紹介が済んでから……まだ一人、いるから。
他　おおお。
浩宇　すまんのう。

全員がナオを見る。

裕香　名前は？
ナオ　……。
裕香　ほらほら。名前くらい言えるでしょ？
ナオ　……。

山岸　無理にはいいよ。あのね、川口ナオさん……だよね？

返事もないのに。

他　へえ。

裕香　けど、嬉しいですよ。これまでね、活動できるメンバーの中ではね、私だけだったんですよ、女性。

江里奈　大変でしたね？

山岸　どうしようか？　まずは家を案内してあげて。

江里奈　あ、お願いします。

裕香　江里奈さんには説明は必要ないけどね、南さんと一緒に住む訳だし。

江里奈　ああ……。

山岸　あの、メイファン、美帆さん？……でいいんだよね？

美帆　はい。

山岸　美帆さんは……あの、その、ナオさんと一緒に住んでもらうことになるんだけど。

美帆　ああ、分かりました。

ナオは小さな声で、

ナオ　……イヤです。

裕香　は？　イヤ？

美帆　私と住むのがってこと？

ナオ　……こんなところ。

他　？

ナオ　こんなところ、イヤです。

裕香　なに？

ナオは横にあった鍋を床に叩きつけて、

ナオ　どうしてこんなところに住まないといけないんですか？
他　（驚く）！
ナオ　私、イヤです。
山岸　ああ、でもさ……仕方ないんだよ。
裕香　そう。それにね、皆いい人たちだし。そんなに悪いとこじゃないのよ。
他　うん。
ナオ　私、結婚したんです。一週間前、ウェディングドレス着て、みんなにおめでとうって言ってもらって。
他　……。
ナオ　今日、新しい家具が届くんです、カナダのメーカーの。耕一郎さんと一緒に選んで。

皆は困って顔を見合わせる。

ナオ　（笑顔で）私……戻ります。
他　え？
裕香　戻るってどこへ？
ナオ　マンションに帰ります。失礼します。

と、ナオは出て行く。

他　……。
裕香　いや、待って！　（大きな声で）戻れないのよ。ここにいるしかないのよ。

しかしナオは去ってしまったようだ。

裕香　……（山岸に）行っちゃったわよ。
山岸　おお。
坂木　島からは出られないのに。
山岸　……禁止区域に行かれても困るし。
裕香　追いかけないとね。
山岸　うん……だな。
美帆　私もいきましょうか？　一応、病院からここまでずっと一緒に来ましたし。
裕香　お願い。
江里奈　じゃ、私も。
南　うん。
坂木　いや、僕達も行きますけど。

と、裕香、江里奈、美帆が出て行く。
坂木も追う。
顔を見合わせる山岸、南、暁明、浩宇。

暁明　え？　みんなで、だよね？
南　うん、踏み出せなくて。

山岸も取り残されている。

山岸　……なに？
南　いやあ、山岸さん、一応、リーダー的なアレでしょ？　なのに取り残されてますね？

山岸　いや、ああ、追いかけるつもりだったのに……。これ（手すり）があったから。
南　じゃあ、ほら。
暁明　ですね。
山岸　いきますか。

山岸、南、暁明が出て行こうとするが、浩宇はおかしなところに視線を向けている。

暁明　おい、浩宇？
浩宇　……いやあ、わちは、ちょっとここに……。
南　なんでですか？
浩宇　袋……閉めとったはずだで……。
他　は？
浩宇　いやあ、ツノギ虫が……。

他も床や壁に虫を見つけたようで……、

他　うわ！
山岸　嘘でしょ？　あ、ここにもいる……おおお、ここにも！
南　うわ、うわ……え？
暁明　どうするんだ、これ？
山岸　待ってよ。これ、噛まれたら熱が出るんでしょ？
浩宇　うん。高熱が続くで。
暁明　おい、つかまえんと。
浩宇　攻撃されたと判断したら噛むで、そっとツノギの部分をつまむんだわ。
南　ツノギの部分ってどこですか。（他に）僕たちはいきましょ。

暁明　うん。
山岸　浩宇さん、何とかしといて下さいよ。

南、暁明は出て行く。
山岸も行こうとするが、

山岸　（立ち止って）……うそだよ……あれ？
浩宇　どうした？
山岸　あのね……背中をね、歩いてるんです……なにがが歩いてるんです。
浩宇　あ、動いたらダメ。噛むでのう。
山岸　……。

山岸は動けない。

山岸　……ダメなんですよ。虫とかダメなんです。

と、少し動く。

浩宇　じっと！　じっとするべき。噛まれてまうで！
山岸　……あ、あああ。
浩宇　おお、まあ、噛まれてまったねえ。

暗転。

第二場

その日の夜。鍋の後。
テーブルには浩宇、美帆、暁明、江里奈が座っている。
離れて南が本を読んでいるが、時々、チラリと江里奈を見る。
流しには洗った鍋などが箱に入れられている。

江里奈　大丈夫なんですか？　山岸さんは。
浩宇　背中は腫れとるみたいだけど、まだ熱は出とらんでのう。
暁明　お前があんな変な虫を捕まえてくるでいかんのだわ。
浩宇　食べたら本当にうまいんだで。
美帆　ツノギ虫はウチでもよう食べたわ。
浩宇　だろ？
江里奈　ええ？　私、チャレンジしてみようかな。
南　（本から顔を上げて）嫌だよ、俺は。
江里奈　私はなんでもやってみるのが好きなの。
浩宇　だったら今度料理しますよ、わち。
江里奈　お願いします。
浩宇　え？　いつ？　明日？
江里奈　ああ、いいですけど。
暁明　……やっぱり来んなあ？
美帆　ナオちゃんですか？
暁明　うん。
南　一筋縄ではいかないんじゃないですか？
江里奈　だけど、一応、裕香さん達が説得してくれてるんだし、ねえ？
南　……。

南は本に戻る。

暁明　まあ、けど、見つかってよかったわ。
浩宇　すごいでなあ。本当に泳ごうとしとったんだろ？
暁明　どうなんだろう？　だって、海に入るって……あれは自殺みたいなもんだわ。
江里奈　いや、本当に泳ごうとしてたんだと思いますよ。分からないけど、そういう子だと思います、あの子。
浩宇　だけど……お腹も空いとるんでないか。何にも食べとらんのだろ？
暁明　裕香さんが雑炊持ってっとるだろ。
江里奈　病院でさ、隔離されてた時から、そうだったよね？
美帆　え？
江里奈　ナオちゃん、出されたものほとんど食べてなかったじゃないの。
美帆　ですねえ。
江里奈　お弁当もいつも美帆ちゃんが二つ食べてたもんね？
暁明　弁当二つ？
美帆　いや、もったいないで。
江里奈　うん。
南　（江里奈に）おい。
江里奈　なに？

南は「こっちへこい」という表情。
江里奈は立って南の方へ。

浩宇　メイファンは昔からよお食べるんだわ。
美帆　いつの話しとるの？

浩宇　そりゃ、まあ、俺があいつと別れる前だけど。
美帆　あの頃はまだまだ成長期だったで。
江里奈　（南に）なによ？
南　（やや小さな声で）いや……そろそろ、家に行こうよ。
江里奈　ああ。

しかし、江里奈はそのまま何となく暁明達の方を見て話を聞いている。

暁明　いやいや、美帆ちゃん、今でも食べるんでないの？
美帆　はあ？　シャオミンさん、私の何を知っとるんですか？
暁明　うわ、気がついとらんで。
美帆　え？
暁明　あのね、あんた達を歓迎する会だで、わちは我慢しとったの。
浩宇　どうしたんだ？
暁明　この子、泥棒だわ。
江里奈　泥棒？
南　（江里奈に）江里奈。
江里奈　（暁明達を見たまま）うん……。
美帆　ひどいことといわんで下さいよ。
浩宇　泥棒ってなんだ？
暁明　美帆ちゃん、隣に座っとっただろ？　わちの。
浩宇　おお。
暁明　で、それぞれ鍋を取るこんな小皿があったでないか。
江里奈　ありましたねえ。
暁明　この子ね、自分で取った分を食べ終わると、ものすごく自然な流れでわちの小皿を取って、勝手に食べ始めるんだわ。
江里奈・美帆　ええ？

暁明　せっかくわちが冷ましとった大事な鶏肉とかを。
美帆　そんなことしとりません。
暁明　しとったんだわ。わちは、仕方ないで空になった美帆ちゃんの小皿を自分のもんにして、そこにまた山菜やお肉を取って冷ます。すると、今度はそれを持って行くんだわ。
江里奈　暁明さん、完全に配膳係ですね。
暁明　そうなんだわ。取って冷ます取られる。取って冷ます取られる。こう、流れ作業だわな。
美帆　そんなことしとりませんって。
暁明　ああ、腹減った。シメの雑炊まであんたに取られてまったで。
美帆　そんなことしとりません！　大げさに言わんで下さいよ。
浩宇　そうだわ。こいつは大げさだで。
暁明　本当の話だわ。
美帆　だって、わち憶えとるもん。この、シャオミンが食べとる姿。
暁明　シャオミン？　呼び捨てにするな。それにな、あんたわちの親戚でないんだで、ちゃんとトシアキって読め。
美帆　はあ？
浩宇　メイファンいいで。おい、暁明、わちの姪にひどいこと言うとわちが許さんでな。
暁明　お前がノコノコ出てくるな。
浩宇　（立って）なんだ？　やるのか？　ハッ、わちとやるつもりか？
暁明　（立って）いいで、ハッ、やるならやったるで。
江里奈　待って下さいよ。……だけど、美帆ちゃん、あるかも。
美帆　え？
江里奈　いや、病院で出されたプリンとかも、とても自然に私の分まで食べてましたから。
美帆　ええ？　ホントですか？　それじゃ、わち、まるで泥棒でな

いですか？
暁明　だで、そう言っとるでないか？
江里奈　（笑いながら）いやいや、私は全然いいんだよ。
南　江里奈って！
江里奈　……なに？

南の大きな声に、皆も驚く。

南　（急に声を落として笑顔で）いや、あの、ほら、そろそろ帰ろうよ。
江里奈　どうしてそんなに急ぐの？
南　だって……。
江里奈　いいじゃないの。家に行ってもどうせやることないでしょ？
南　まあ……。
浩宇　江里奈さん、南さんはね、ずっと楽しみにしとったで。そりゃ、久しぶりだで二人でゆっくり話したいんでないの。
江里奈　だけど、裕香さんも山岸さんも、それから、あの……。
暁明　坂木？
江里奈　はい。……川口さんを連れてくるって。
暁明　江里奈さんはいいんでないですか。
江里奈　だけど、一応、病院から今日まで四日間、ずっと一緒だったんで、なんだか責任を感じちゃうっていうか。
美帆　平気ですよ。わちがここに残っとりますから。
浩宇・暁明　おお。
江里奈　ごめんね、美帆ちゃん（南に）じゃ、いいよ。
南　え？
江里奈　皆さんもこう言ってくれてるし。帰りたいんでしょ？　家に行こうよ。

南　いや、そんな、アレじゃないけど。
江里奈　（笑って）は？　なにそれ？
南　いやあ……そんな言い方ないだろ？
江里奈　帰りたいんでしょ？　だからいいっていってるだけじゃないの。
南　なんでそんなイライラしてるんだよ？
江里奈　してないわよ。
南　してるよ、してるだろ？
江里奈　やめてよ、皆さんの前で。
南　お前が変だからだろ？
江里奈　変じゃないよ。
南　変だよ。
江里奈　私ね、あなたと二人になりたくないの。
南　え？
江里奈　それだけ。
南　ど……どういうこと？
江里奈　今、言ったでしょ？
南　なんで？　なんで二人になりたくないの？
江里奈　え？　ここで理由喋れってこと？
南　……いや、知らないけど、なんなの？
江里奈　私、好きな人できたし。
南　は？
浩宇　（同時に）おお？

江里奈は浩宇を見る。
そこに裕香が顔を出す。

裕香　あ、まだ、皆さん、残ってた。うわ、ごめんね、後片付け。

江里奈　いえ。

続いてナオ、そして坂木が後ろから入ってくる。

ナオ　お騒がせしてすみませんでした。

他　ああ。

裕香　雑炊も全部食べたし、ね？

ナオ　はあ。

しかし他は返事しない。

裕香　なに、ぼうっとしてるの？　ナオちゃん来たのよ。

他　あ、おお。

浩宇　元気になったの？

ナオ　……少しだけ落ち着きました。

浩宇　おお、それはよかったで。

坂木　よくないですよ。

浩宇　は？

坂木　いや、川口さんはいいんですけど……山岸さん、どうするんですか？

浩宇　なんだ？

坂木　なんか、寒気がするって。

浩宇　あら、ツノギの毒にやられたか。

ナオ　あの……私も座っていいですか？

暁明　どうぞどうぞ。

ナオは座る。

裕香　（嬉しそうに）『寝る？』って聞いたら、皆のところに行くっていうもんだから。
他　おお。
裕香　お茶淹れるね。今からナオさんの歓迎会よ。
江里奈　いや、私たちは帰りますので。
坂木　そうなんですか？
江里奈　うん、ナオちゃんの顔見て安心しましたし。
裕香　ええ？　お茶くらい飲んでいったら？
江里奈　いいんですけど（南に）話した方がいいでしょ？
南　うん……。
江里奈　じゃあ、皆さん、また明日……で、いいんですかね？
坂木　ええ。まあ、ここに来たら誰かはいますから。
江里奈　はい。……じゃ、行こうよ。

と、江里奈は出て行く。
南は困惑したまま、皆に頭を下げて出て行く。

南　皆さん、おやすみなさい。
他　はあい。
裕香　なによ、中途半端ねえ。今まで待っててくれたんなら、もう少しいてくれればいいのに。
浩宇　それは無理だわなあ。
暁明　うん。
美帆　いやあ、だけど、ナオちゃん、よかったわ。
ナオ　……なんか、申し訳なくなって。
美帆　ん？
ナオ　裕香さんの話を伺ってたら、私はまだマシな方なんだなあって思えて。

裕香　お役に立てて嬉しいけど、なんか複雑。
坂木　僕もはっきりいって驚きましたよ。あそこまで詳しく聞いたの初めてでしたから。
暁明　え？　旦那に捨てられたって話でしょ？
坂木　いや、そんな生易しいもんじゃないですよ。聞いてて、人間が怖くなりましたよ。もうね、ホラーですよ、ホラー。
美帆　え？　ホラーなんですか？
坂木　まあねえ。
暁明　教えてよ。
坂木　裕香さん、いいですか？

裕香はお茶の準備をしながら、

裕香　ダメよ。ナオさんの気持ちが少しでも和らげばと思って喋ったんだから。
坂木　はあ。
ナオ　でも、ホント……あれで落ち着いたんで。
美帆　え？　どんな？
坂木　裕香さんダメだって言うから。
美帆　ホラーだったら聞きたいでなあ。いやあ、わち、怖い話に目がなくって。怪談話のマニアっていうか。
他　……？
美帆　あ！　でも、あれは嫌ですよ。あるでないですか。最後に驚かせるタイプのヤツ。「それは……お前だ！」とか。ああいうのは嫌いなんで。
坂木　美帆さん、流れから完全に外れてるって理解してる？
美帆　はあ。
暁明　え？　検査受けただけで、追い出されたってあれだろ？

坂木　言えません。
暁明　ええ？　気になるわ。なあ、浩宇。
浩宇　ああ。
暁明　なんだ？　そういうのには誰よりも食いつくのに。
浩宇　今のわちは別のことで頭いっぱいだで。
裕香　はい……お茶です。なんとお茶菓子付き。小さいけど。

と、お盆にお茶を五つと小さなお菓子を乗せて持ってくる。

美帆　うわ、デザートに甘いもの欲しかったんです。
裕香　配給の中に入ってて。
暁明　これはポルトチョコでないか。わち、このチョコに目がないで。最後に食べよ。
ナオ　……へえ。こんな高級なものまで配られるんですね？
裕香　いや、珍しいのよ。

裕香はお茶とお菓子をテーブルに。
浩宇は立ち上がる。

浩宇　あの、わち、お茶いいわ。
他　は？
浩宇　ちょっと、行ってくる。
裕香　どこへ？
浩宇　南さんのところ。
坂木　南さんの？
浩宇　うん、南さんとこ大変なことになっとるで。
坂木　どうしたんですか？
浩宇　いや、揉めとったんだわ。

坂木　揉めとった？
浩宇　うん。奥さん、最後に衝撃的な一言放ったでなあ。「好きな人できてまったでのう」って。
裕香・坂木　え？
暁明　「のう」とは言っとらんけど。
裕香　ええ？　嫌ねえ。なになに？
浩宇　これは、これは大きな事件だわ。
坂木　浩宇さん、相変わらずゴシップ好きですねえ。南さんのこといいから、山岸さんの様子見て来て下さいよ。
浩宇　いやあ。
裕香　ホントね、浩宇さん、ダメですよ。そうやって首突っ込んで、あることないこと喋って回って。
浩宇　うん、わちがゴシップ好きっていうことは認めるけど、これはちょっと違うんだわ。
暁明　何が違うんだ？
浩宇　いやあ、認めたないけど、わちも当事者かも知れんで。
他　は？
浩宇　江里奈さんが最初、ここに顔を出した時だわ。
他　……？
浩宇　わちと目が合ったで。
暁明　何を言っとるんだ？
坂木　（手を上げて）はい。……あの、あの、まさかとは思いますけど、
浩宇　分かっとるよ。わちにだって常識はあるで。それだけでは判断せんわ。
坂木　え？　江里奈さんになにか言われたんですか？
浩宇　言葉で言われたわけではない……だけどな、さっき、好きな人ができたって言った時……パッとわちを見たで。あれはどう

考えてもそうだわ。
裕香　そうだったの？
美帆　いや、ハオちゃんが大きな声出したからでないの？
浩宇　（寂しそうに笑って）分からんのだわ。メイファンはまだまだ子供だで。
美帆　いや、大人だで。
浩宇　見かけだけはな。
暁明　わちも美帆ちゃんに賛成だけど。どっから見ても大人なわちも。
浩宇　行ってくる。すぐに戻るで。

と、浩宇は出て行く。

暁明　無視するなて！
坂木　……え？　え？
暁明　わちも唖然としとる。
坂木　ですよねえ。
裕香　だよね？　残された私たち、気持ち一緒だよね？
ナオ　発言する資格あるのか分からないですけど、私すらそう思います。
裕香　だよね？　常識はこっちにあるよね。
美帆　……（呆れたように）変わっとらんで。
他　へ？
美帆　昔からなんですよ。すぐに自分に気があるって勘違いしちゃうんです。
暁明　そうなの。
美帆　はい。私のお母さんも勘違いされたって言ってましたし、もちろん私も。

裕香　え？　美帆ちゃん、姪でしょ？
美帆　はい。高校生の時ですかね。「ハオちゃんって喋りやすい」って言ったら、「気持ちは分かるけど、わちには答えることができない」って真剣に言われたことあります。
暁明　なんだそりゃ。
坂木　ええ？　一年も一緒にいたのに……全然分かりませんでしたね。ただのゴシップ好きだって思ってたから。
暁明　分からんかったわなあ。裕香さんしかおらんかったで。
裕香　そういうことか……。
坂木　あったんですか？
裕香　最初の頃ね、「思いを断ち切ってくれ」って、意味不明な言葉をかけられたけど、そういうことか……。
暁明　はいはい。だで、裕香さんは山岸さんのこと好きなんでないかって話したことありますよ。浩宇、「だったらよかった」って安心しとったで。
裕香　安心って……不必要に傷つくんだけど。それに山岸さんのことも違いますから！
暁明　それはどうだろう？　どうだ？　坂木さん。
坂木　まあねえ。
ナオ　……だけど……のんびりしてますね。
他　え？
ナオ　いや、こんな話してられるなんて。
裕香　なにが？
美帆　ああ、分かる。
ナオ　ねえ？
坂木　あ、もっと、ここが悲惨だって思ってたってこと？
ナオ　はい。
裕香　だから言ったでしょ？　ヨコガワ病については、まだまだ分

からないんだから。死ぬと決まったわけじゃないし。
ナオ　だけど意外でした。誰も怒ってなかったから。
裕香　何が？
ナオ　だって、こんな島に隔離されて、普通、そんなのどかにしてられます？
暁明　まあ、仕方ないでなあ。
ナオ　ヨコガワ病って、十年前にガンジ山につくられた国の研究施設のせいなんですよね？
坂木　そう。アカヤネ。
暁明　気持ち悪い建物だわ。屋根が真っ赤で、えっらい巨大で。何を研究しとるのか知らんけど。
ナオ　最初はあの施設の周辺でばっかり患者見つかったって聞きました。
坂木　国は因果関係絶対認めないけど。
ナオ　はい。だから患者を隔離して、情報を遮断してるって。
裕香　それもその通りね。
美帆　ホントムカつくでなあ。（暁明に）大体、アレだろ？　アカヤネがガンジ山にあったのだって完全に差別だで。
暁明　ガンジならいいだろうっていう、なあ？
美帆　ガンジビトを軽んじとるって、みんな言っとったもんなあ？
暁明　うん、けど、わちら友達でないんだで。
美帆　ごめんな。
ナオ　なのにここは……のんびりしてて。

坂木は思い出すように、

坂木　……めちゃくちゃ怒ってたよ、みんな。
ナオ　え？

裕香　そうなの。最初はね、ここも大変だったのよ。荒れちゃって。
ナオ　そうなんですか？
裕香　そりゃそうでしょう。特にほら、山岸さんと坂木さん、国の役人だったから。今の籾山君みたいな立場。
美帆　あ、案内してくれた人のことか？
暁明　そう。
裕香　だから、みんながこの二人を責めて。
坂木　「情報出せ」とか「お前らのせいだ」とか、顔出す度に怒鳴られて、胃が痛くて仕方ありませんでしたよ。
裕香　特に、浩宇さんと暁明さん、すごかったもん。
暁明　わちか？
坂木　裕香さんだって怖かったですよ。
裕香　まあ、私は、そもそも旦那がそういう活動してたし。ヨコガワ病に関して国の責任を追及する運動してて。
暁明　ただな……二人が感染したって分かってこっちに来たときだわ。わちらは決めたの。取り敢えずは仲良うやろうって。ここでわちらが争っとっても意味ないって。
ナオ　そうなんですか……。
坂木　まあ、山岸さんが悪いんですよ。
暁明　ああ。
坂木　ホント頼りにならないし。問題になりそうなことは、言わなくなるんですよ、あの人。
暁明　あれは、かなり臆病な男だでなあ。
裕香　けどね、根は優しいのよ。
ナオ　優しさと臆病って同じことですもんね。
坂木　……川口さん、あなた詩人なの？　今、一瞬時間止まったよ。
美帆　わち、意味分からんわ。なんだ？　優しさと臆病が同じ？

山岸が入ってくる。

山岸　あ、まだ喋ってるの？
他　おお。
坂木　山岸さん、大丈夫ですか？
山岸　うん、いや……ここに薬ってあったっけ？
裕香　どんな？
山岸　分からないけど。熱っぽくって。
裕香　薬なら中の棚にあるけど。
坂木　浩宇さんに会いませんでした？
山岸　ああ、蓮池の方に向かって走ってくのを見かけたけど、なに？
　南さんの家？
裕香　うん。
山岸　なんかさ、すごい難しい顔してたよ。
坂木　はい。全く不必要なことで悩んでるみたいで。
裕香　（立って山岸に）薬、見てくるわ。（皆に）じゃあ、解散する？
　話したかったら明日もあるしね。
ナオ　あ、はい……。

ナオと美帆は立ち上がりながら、

ナオ　あの……今日はご迷惑をおかけしてすみませんでした。
山岸　いや、全然。もっと暴れるんじゃないかと覚悟してたから。
美帆　行こ。
ナオ　（裕香に）あ、ごちそうさまでした。
裕香　はあい。おやすみなさい。

裕香は立って上手の中に入っていく。

暁明は美帆に向かって、

暁明　あ……あんた！
美帆　は？
暁明　いつの間に？
美帆　なんだ？
暁明　食べてまったでないか。わちのチョコ、食べてまったで。
美帆　はあ？　食べとらんわ。
暁明　他に誰がおるんだ？　ハッ、なくなってまっとるでないの。
美帆　ハッ、わちでないわ！
坂木　暁明さん、浩宇さんの分がありますから……あれ？
美帆　あ、それはわち食べた。親戚だで。
暁明　どんだけ食うんだ？　あのな、泥棒はいかんで。
美帆　うるさいわ、この、シャオミン。
暁明　な……。
美帆　（ナオに）さ……口の中、あまあ。

と、二人は去っていく。

暁明　なんだ、あの女は。

裕香が出て来て、

裕香　薬はこれしかないけど、その虫の毒に合うのかどうか。（と、渡す）
山岸　なんでもいいよ。
坂木　ほら、僕らもいきましょう。
暁明　お、おお……。

坂木　おやすみなさい。
暁明　ごゆっくり。

と、坂木と暁明も消える。
裕香は水を汲んでいる。
山岸はテーブルに座る。

裕香　大丈夫？
山岸　うん……。
裕香　はい、お水。
山岸　うん。（薬を飲む）
裕香　だけど川口さんも大丈夫そうだし、一段落ね。
山岸　うん。なに喋ってたの？
裕香　まあ、色々。（笑って）なんかさ、完全にそう思われてるよね？
山岸　え？
裕香　山岸さんと私。
山岸　ああ。
裕香　もう嫌になっちゃうわ。
山岸　おお。
裕香　何にもないのにさ。
山岸　だよな。
裕香　……だけど、どうなるんだろ？
山岸　なにが？
裕香　私たち。
山岸　どうもならないよ。
裕香　ああ、そうなの？
山岸　うん。
裕香　そうなのか……。

山岸　うん。
裕香　ふうん。

一瞬、間。

裕香　どうして？
山岸　え？
裕香　あ、誤解しないで。別にさ、別に私は、どうにかなりたいとかじゃないんだよね。だけど……そんな風にはっきり言うって、どうしてかなと思って。
山岸　だって、こんな場所でさ、患者同士でそんなこと言ってても仕方ないだろ。
裕香　（笑って）だけど、分からないでしょ？
山岸　え？
裕香　長生きするかも知れないじゃないの。
山岸　無理だよ。
裕香　なんで？　それこそさ、ほら、あの、横川博士が原因を解明してくれるかも知れないじゃない。で、治療薬が出来て、私たち治って……。
山岸　あの人、表に出なくなったって。
裕香　は？
山岸　今日、江里奈さんから聞いたんだけど、横川さん、最近、ニュースとかでも全く見ないって。
裕香　どういうこと？
山岸　きっと、国にとったら都合悪いんだよ。横川さんの研究。
裕香　……。
山岸　分かるだろ？
裕香　……。

山岸　それにさ、俺自身、どうもおかしいんだよね？
裕香　え？
山岸　最近、記憶が。
裕香　どういうこと？
山岸　ど忘れとかじゃなくて。真っ白な部分があるんだよ。高校時代の記憶とか消えて来て。おかしくなってるなあと思って。
裕香　……ウソでしょ？
山岸　まあ、まだ斑点は赤いけどね。
裕香　やめてよ。ええ？　ちょっとやめてって。
山岸　うん……。
裕香　勘違いよ。
山岸　かなあ。
裕香　絶対にそうよ。
山岸　うん。
裕香　じゃ、高校三年の時の担任は？
山岸　葉山先生。
裕香　入ってた部活は？
山岸　手芸部。
裕香　好きだった女の子は？
山岸　アツミちゃん。
裕香　ほら、覚えてるじゃないの。
山岸　うん。
裕香　……山岸さん、誰かがそう言う発言すると、不吉なこと言うなって怒るくせに。
山岸　ああ。なんだろ？　人のことだと怖いんだけど。
裕香　（窓の外を見て）ねえ、ちょっと散歩しよ。
山岸　え？　熱っぽいって言ってるだろ？
裕香　いいじゃないの。散歩しようよ。星もキレイだったし。日和

山まで行く？
山岸　うん……。だけど夜は猪とか出るし。
裕香　（笑う）そういうのは怖いんだ？
山岸　ええ？　そりゃ、猪は怖いよ。
裕香　臆病ねえ。
山岸　ああ。
裕香　……臆病だから優しいんだもんね、山岸さん。
山岸　なにそれ？
裕香　さ、行こう。日和山じゃなくていいから。

と、山岸は立つ。
すると江里奈が入って来て、

裕香　あれ？　江里奈さん……？
江里奈　初日からすみません、色々。
裕香　いや……なんですか？
江里奈　山岸さん。
山岸　はあ。
江里奈　私も美帆ちゃん達のとこじゃダメですか？
山岸　え？
江里奈　いや、どうしても南とは一緒に暮らせないんで。
山岸　はあ？　ええ？
江里奈　本当にすみません。

山岸は裕香を見る。
暗転。

第三場

二週間ほど経った。
籾山と南が座っている。

南　……なんで誰も来ないんだろ？
籾山　ですねえ。
南　籾山君、歓迎されてないってことかな。
籾山　ですかねえ。
南　あのさ、あの三人が来た時はね、次の日も、その次の日もやたらここに人が集まってて。
籾山　はあ。
南　まあ、色々とあったのは確かだけど、オシマイの儀式とかあったし。それでも盛り上がる感じだったんだよ。
籾山　ええ。
南　（笑って）昨日も何もなかったしね。
籾山　え？
南　いや、イベント。三人が来た時はね、鍋をやったの、ここで。
籾山　はい。
南　なかったもんねえ、昨日？
籾山　ええ。
南　本当に何にもなかったよね？
籾山　挨拶はしました。
南　だけど、全員揃わなかったよ。あり得ないでしょ？　籾山君が感染したっていうのに。
籾山　ええ。
南　……歓迎されてないんだよ、やっぱり。
籾山　ですかねえ。

南　（笑って）そんな顔だったんだね。
籾山　ん？
南　ほら、これまでマスクつけてたから。
籾山　……。
南　なんか、喋りなよ。
籾山　え？
南　さすがにさ、耐えられないんだよ。
籾山　ああ。
南　……なんで俺が籾山君と一緒に住まないとダメなんだろ？
籾山　部屋空いてたからでしょ？
南　そうだけど。……家にいても息が詰まるからここ来たのに。
籾山　誰も来ないですもんねえ。
南　そう。

間。

南　昔から？
籾山　何がですか？
南　喋らないのは。
籾山　いやあ、喋りますよ、普通に。
南　それで？
籾山　いや、今はあんまり喋ってないと思いますけど。
南　あれ？　俺だから？
籾山　え？
南　俺が相手だから喋らないの？
籾山　そういう面はあるかも知れないですね。
南　そうなのか……。なんか釈然としないね。
籾山　そうですか？

南　相手によっては喋るの？
籾山　ですねえ。喋り過ぎて反省することありますから。
南　え？　籾山君が？
籾山　はい。南さんより喋ると思いますよ。
南　そんなことないよ。
籾山　そうですか。
南　俺、基本、喋るよ。
籾山　だけど昨日だって全然。
南　それは……知ってると思うけど、まだ、立ち直ってないからさ。
籾山　ああ、奥さんのことですか。
南　うん、二週間では無理だよ。
籾山　ああ。
南　それにさ、カウンターパンチって効くんだよ。
籾山　はい。
南　……え？　分かる？　カウンターパンチ。
籾山　相手を殴ろうとした時に殴られるっていうアレですよね？
南　うん。つまりさ、あいつに会うことなんてすっかり諦めてたのに。偶然来るって分かって、こう、期待のレベル、上がっちゃってた訳でしょ？
籾山　はい。
南　その上がったところにドンだからさ。
籾山　だから分かりますって。
南　だったらもう少し反応してよ。うまく喩えたでしょ？
籾山　ああ。
南　……やっぱりね、籾山君だよ。俺達が弾まないのは籾山君のせいだよ。
籾山　すいません。
南　だって、俺もあるもん。それこそ喋り過ぎて、後で自己嫌悪に

なったりすること。
籾山　じゃあ、誰かが来たら一発で分かりますね。
南　何が？
籾山　いや、どっちがよく喋るのか？
南　うん。（少し小馬鹿にして）見てみたいよ。話し過ぎて反省してる籾山君。
籾山　ええ。

と、ナオが入ってくる。

ナオ　あ、お早うございます。
南　おお、来たよ、人が来たよ。お早う。
籾山　お早うございます。
南　何？
ナオ　コーヒー取って来てって言われて。
南　コーヒーなら、その中に入ったところ。で、取った分は紙に名前を書く。
ナオ　はい。聞いてます。
南　だけどあんまり美味しくないんだよね、配給の豆。苦いばっかりでしょ？
ナオ　はあ。
南　俺、酸味の強いのが好きだからさ。
ナオ　私あんまり詳しくないんで。
南　あああああ。

ナオは中に入っていく。

南　（笑って）籾山君、大丈夫？

籾山　は？
南　いやいや、全然喋ってないみたいだけど。
籾山　え？　これ、そんな短期決戦なんですか？
南　だって一発で分かるっていったの籾山君でしょ？
籾山　ええ。分かりましたよ。
南　お、やる気になったね。
籾山　南さんが火をつけたんですよ。
南　（奥に）川口さん！　コーヒー豆見つかった？　フフフ。（籾山を見て余裕の笑み）。苦いから牛乳入れた方がいいよ！　フフフ。（籾山を見て余裕の笑み）

と、下手から江里奈が入ってくる。

江里奈　（奥から）ナオちゃん。……（二人を見て）あ、お早う。
籾山　お早うございます。
南　（小さな声で）おう。
江里奈　あれ？　ナオちゃんは？
籾山　あ、そこに。コーヒー豆を。
江里奈　（中に向かって）ナオちゃん？

ナオが顔を出す。

ナオ　ああ、江里奈さん……なんですか？
江里奈　あのさ、やっぱり私もコーヒーいいわ。
ナオ　どうしてですか？
江里奈　ここのコーヒーって苦いだけでしょ？　だからお茶にするわ。
ナオ　はい。

南　（小さい声で）ああ、お前も酸味のアレだもんな。
江里奈　は？
南　（小さい声で）ほら、ウチ、酸味の強い豆だったし。
江里奈　なに？
南　いや、いい。
ナオ　……じゃあ、私もそうします。お茶ならまだ家にありますし、美帆さんもコーヒー飲みませんもんね？
江里奈　うん、ごめん、無駄足になっちゃって。
ナオ　いえいえ。わざわざ追いかけてくれなくてもいいのに。

江里奈は籾山を見て、

江里奈　どうですか？　患者になった感想は？
籾山　特にないですけど。
ナオ　最初の日って眠れなくないですか？
籾山　いや、布団に入った時は色々考えちゃったけど、気がついたら眠ってて、そこからぐっすり。
江里奈　いいなあ。私、二週間経ったのにさ、全然眠れないんだよね。
南　（小さい声で）俺も。
籾山　え？
江里奈　ここの布団って重たくない？
ナオ　重いですよねえ。寝返り打てないですもん。
籾山　ええ？　僕ね、逆に好きで。
江里奈　私ダメ。羽毛とか、そういう軽いのが好きだし。
ナオ　はいはい。
籾山　ええ？　けど、頼りなくないですか？
江里奈　そう？

籾山　僕、ずっしりしたのが好きっていうか。
ナオ　ええ？　あの布団のせいで、私、この前、象に押しつぶされる夢見ましたもん。
江里奈　なによ、それ。

と、三人は笑う。

南　（小さい声で）俺も羽毛が好き。
籾山　え？
南　……ハンデ大きいよ。
籾山　はあ？
江里奈　……ねえ、籾山君。
籾山　はい。
江里奈　要望がある時って誰に言えばいいの？
籾山　そうなんですよねえ。
江里奈　どうして来ないの？　その、新しい担当者。
籾山　ええ。本来なら、昨日、僕に同行してくるはずだったんですけど……。
ナオ　担当者いなくなることなんてあるんですか？
籾山　いやあ、それはないと思うんだけど。
江里奈　そんなの困るよねえ。連絡手段もないんでしょ？
籾山　はあ。ないことはないんですけど……。
南　（小さな声で）だけどコーヒーは無理だよ。
他　……え？
南　うん。
籾山　南さん、さっきから声が小さいんですよ。
南　あ、うん、（江里奈をしっかり見て）いや、あのさ、分かるよ。いつもウチはコロンビアの浅煎りを使ってたから、ここのコー

ヒーは合わないよね。けどね、昔、コーヒー豆のことは俺も要望出したんだよ。でも、それは聞けないって言われたことあったからさ。

江里奈　コーヒーのことなんて言うつもりなかったけど。

南　あ、だったら、うん……。

江里奈　いや、新しい人来てくれなかったらさ、完全にここ孤立しちゃうでしょ？　そういうこと。

籾山　今日は配給の船くる日ですから、一緒に乗ってくると思うんですけどね……いずれにしても、その時、聞いてみるって言ってました。山岸さんと坂木さんが。

江里奈　そう。

ナオ　じゃ、戻ります？

江里奈　そうね。

籾山　え？　行っちゃうんですか？

江里奈　うん。

籾山　せっかく楽しくお喋りしてるのに。

ナオ　ああ、だったら家に来ます？　今からお茶飲むんですけど。

籾山　いいんですか？

ナオ　もちろん。（江里奈に）ねえ？

江里奈　うん……でも……。

籾山　あ。（南を見て）

南　……。

籾山　そっか。

南　俺はいいよ。行っておいでよ。

籾山　けど……。

南　俺はね、行けないんだよ。忙しくって。

江里奈　あなたも来たら？

南　……。

ナオ　そうですよ。浩宇さんも来てますから。
籾山　あ、そうなの？
ナオ　ええ……なんかね、最近、あの人、しょっちゅう顔出すんです。
江里奈　メイファンのことが心配だでって言ってるけど、どうもナオちゃんなの。
籾山　え？
江里奈　ああ、籾山君は知らないか。
籾山　なんです？
ナオ　……私、どうやらあの人に気があると勘違いされてるみたいで。目が合う度にウインクされますし。
籾山　ええ？　どういうこと？
ナオ　だから、誰かに来てもらった方がありがたいんです。
籾山　おおおおおお。
江里奈　（南に）あなたはどうするの？
南　ああ……どうしようっかな……忙しいしなあ。
江里奈　だったらいいけど。（ナオに）行く？
ナオ　ですね。
籾山　古いトラック停まってる家ですよね？
江里奈　そうそう。
籾山　じゃあ、南さん、僕行ってきますけど。

南は江里奈を睨んで、

南　（小さい声で）なんだよ、お前。
江里奈　え？
南　（小さい声で）だったらいいって……なんだよ？
江里奈　は？　来たいなら来たらいいけど、忙しいんでしょ？

南　（更に小さい声で）ひどいよ。だって、普通、アレ……。
江里奈　大きな声で喋ってよ。聞こえないのよ。

南は立ち上がって、

南　（怒る）ひどいって言ってるの！
江里奈　……なにが？
南　忙しい訳ないだろ？　やることなんかないのに、忙しい訳ないだろ！
江里奈　自分で言ったんじゃないの。
南　大体さ、よくそんな風にしてられるな。くだらないことベラベラ喋ってさ、羽毛が好きとかなんとか、お前の神経を疑うよ！
江里奈　はあ？
籾山　あ、いや、南さん……。
南　籾山君、俺、こういう状況なの。もう平気な顔してるので精一杯なの。だからおしゃべりになんかなれないんだよ！
籾山　あ、いいです。それは僕の負けでいいですから。
江里奈　怒鳴らないでよ。
南　お前が悪いんだろ？
江里奈　……悪いとは思うよ。なに？　もっと申し訳なさそうにしてたらいいの？
南　そんなこと言ってないだろ？
江里奈　じゃ、どうしてたらいいのよ？
南　だって、お前が好きになった人ってさ、外にいるんだろ？　もう会えないんだろ？
江里奈　そうよ。
南　だったら黙っててくれたらよかったじゃない。なんで言うの？なんで正直に言っちゃうんだよ？

江里奈　そこからなの？
南　そこからもここからもないだろ？
江里奈　え？　言わずにどうするの？　あなたと一緒に住んだらよかったの？
南　そうだよ。
江里奈　できないもん。
南　どうして？
江里奈　私はウソつけないの。
南　……俺達さ、そのうち死ぬんだよ。知ってる？　斑点が紫になって、突然、泡吹いて死ぬんだよ！
籾山　いや、高齢者以外、まだ死んでないんですから。
南　死ぬよ！　すぐ死ぬよ！
籾山　はあ？
南　籾山君も死ぬ！
江里奈　あなた！
南　……俺たちさ、ノートをつけてたの。記憶ノート。病気の進行で記憶がおかしくなると困るからって、これまでの想い出とかエピソードを書けるだけ書いてたの。一人一冊ずつ。分厚いノートにびっしり。
江里奈　……。
南　だけど俺が書いた想い出はほとんどがお前と結婚してからなんだよ。それこそ一緒に羽毛布団買いに行った話や、コーヒー豆のことで喧嘩した話まで、全部書いたの。
江里奈　うん。
南　そういうなんでもないエピソードを書きながら、俺ね、辛くて仕方なかったよ。ああした日常が戻らないんだって思うと居たたまれなかったよ。
江里奈　分かるよ。

南　せっかくこうして再会できて……できて……なのにあんなこと言われて。
江里奈　……。
南　ここからも出られない。残りの時間だって少ない。だったら我慢してくれよ！
江里奈　残りが少ないと思うからでしょ？　そう思うからウソはつけないの！
南　……。

南は落ち着いてくる。
ヘリコプターの音が遠くから聞こえる。

南　（冷静に）なんになるの？　こんな場所でさ、こんな場所で別れてなんになるんだよ？
江里奈　なんにもならないと思うよ。……だけど、無理なの。それだけ。
南　……。
江里奈　あなた……分かってよ。

取り敢えずの返事として、南はその場から移動する。
ヘリコプターの音が大きくなって来る。
皆は音のする方を見る。

籾山　……え？　なんだろ？
ナオ　ヘリコプターですか？
籾山　こっちに来てますね。

音はどんどん大きくなり、窓の外の木々が激しく揺れる。

建物自体が振動する。

南　わわわ、なに？　なに？

会話するが以下の声は聞こえない。

南　（指をさしながら）何？

籾山　（ジェスチャーを交えて）分かりません！

間。

南　近いよ！

籾山　ですねえ！

オロオロする皆。

と……ドサっという大きな音が外で響く。

全員　（驚く）おお。

思わず屈み込んだりする一同。

南　なんだよ、今の？

そしてヘリコプターの音が少しだけ小さくなり、会話が聞こえてくる。

ナオ　なんか、なんか落としましたよね？

江里奈　うん。

南　配給置き場のとこ？
籾山　ええ……あれ？　配給物資？
南　ヘリコプターで？
籾山　さあ。見てきましょうか？

裕香が入ってくる。
ヘリコプターの音はまだ遠くで聞こえている。
少しずつ遠ざかって行くようだ。

籾山　あ……。
江里奈　なんなんですか、あれ？
籾山　配給ですか？
裕香　みたい。
籾山　え？　ヘリコプターで？
裕香　今ね、山岸さんと坂木さんが確認しに行った。
籾山　そうですか……じゃ、僕もいかないとまずいですよね？
裕香　まずくはないけど……。
籾山　いや、行ってきます
ナオ　気をつけて。

と、籾山は出て行く。
ヘリコプターは飛び去って行った。

江里奈　ヘリコプターって、すごい音するのねえ。
ナオ　怖かったです。
南　ヘリが来たのって、最初の頃に一回だけありましたけどね。
裕香　建築資材とか運んで来た時でしょ？
南　うん。

江里奈　普段は来ないの？
裕香　うん、普通ね、配給は船で来るのよ。一週間に一回。
江里奈　ああ……。

美帆と浩宇が入って来る。

浩宇　わわわわ、なんだ今の？
美帆　（ナオと江里奈を見て）あ、やっぱりここにおった。
ナオ　あ、ごめんなさい。
美帆　江里奈さんまで戻って来んで。
江里奈　あ、うん。ごめん、それで来てくれたの？
美帆　けど、そしたら……なあ？
浩宇　迫力あったわ。
美帆　すごかったで、風が。えっらい低いところまで降りて来て。
浩宇　なんか落としたで。大きな袋を。
裕香　ええ。
美帆　ドサって、なあ？
浩宇　なんだあれは？
裕香　山岸さんたちが確認しに行ってくれてます。ここで待つって言ってあるし。

と、裕香はテーブルに座る。

ナオ　江里奈さん、どうします？
江里奈　うん（南に）あなた、私もここにいていい？
南　え？　あ、うん……。
江里奈　（ナオに）そうしよ。
美帆　え？　家でお茶、飲むんでないんですか？

江里奈　だけどちょっと気になるしねえ。ほら、分かるまでここにいようよ。
美帆　はあ。

皆、それぞれ座って行く。
浩宇はナオの近くに、

浩宇　ナオちゃんは大丈夫だった？
ナオ　え？
浩宇　ヘリコプター。
ナオ　はい。
浩宇　そっかそっか。

浩宇はウインクする。

ナオ　え？
浩宇　いやいや。
南　だけど……あれが配給だったとしたら……なんだろうね？
他　？
南　変だよね？
裕香　うん。
江里奈　なにが？
南　うん……。
裕香　いやあ……新しい担当者も来ないし。
南　そうそう。
浩宇　確かになあ。なんか方針が変更されたとかか？
南　そんな感じがしますね。

美帆は周りを見回して、

美帆　は？……なんだ？
裕香　いや、まあ、心配しすぎかも知れないけど。
美帆　おいおい、ちゃんと分かるように言って下さいよ。
裕香　山岸さん達が来てからね。
南　ですよね。
美帆　前からおったメンバーだけで分かり合っとる感を醸し出して感じ悪いわ。
浩宇　おい、メイファン。
美帆　わちらはなんも分からんで。なあ？　ナオちゃん、そうだわな？
ナオ　言ってることは賛成ですけど、そのニュアンスには反対なんで。
美帆　はあ？
ナオ　待ちましょうよ。
江里奈　そうよ、美帆ちゃん、落ち着いて。
美帆　はあ……。

と、坂木が入ってくる。苛立っている。

南　あ、坂木君。
坂木　……。
裕香　え？　もう確認終わったの？
坂木　いや、まだ。
裕香　どうしたの？
坂木　山岸さんにちょっとムカついたんで。
裕香　え？

南　配給物資なの？
坂木　はい。袋の端に説明が括りつけられてたんですけど、これから配給、月に一回、ヘリで落とすみたいです。
裕香　月に一回？
浩宇　え？　船はもう来んのか？
坂木　ですねえ。
南　新しい担当者は？
坂木　知りませんよ。
浩宇　知らんってなんだ？
坂木　（イライラして）きっといないんですよ。籾山まで感染したってことでいなくなったんでしょ。
他　ええ？

皆は顔を見合わす。

江里奈　え？　じゃあ……こっちからの連絡はどうするんですか？
坂木　そこなんですよ。まあ、緊急の時に使ってた電話はありますけど。これ、これまでみたいになケアを放棄したってことでしょ？
他　……。
坂木　見捨てられていってるんですよ、絶対。
ナオ　え？
浩宇　ナオちゃんは心配しなくていいから。

と、ウインクをする。

南　……まあ、俺たちもそういうことじゃないかって話してたんだけど。

美帆　あ、そういうことか？
裕香　坂木さん、山岸さんにムカついたってなに？
坂木　本当にあの人ダメなんですよ。
裕香　なにが？
坂木　僕、紙を見て、まずいと思って。だからすぐに連絡した方がいいって言ったんです。このままだと、月一回、物資を待つだけの存在になっちゃいますから。病気のことだって分からないままで。
浩宇　だわなあ。
坂木　なのに山岸さん大丈夫だって。しばらく様子を見てとか言うんですよ。
浩宇　どこまでのんびりしとるんだ？
裕香　いや、のんびりしてる訳じゃないでしょ？
坂木　してますよ。笑ってましたから。
南　え？　笑ってる？
坂木　袋の中を覗いて「シチューのレトルトまである」とか言って。
裕香　あの人、シチュー好きだから。
坂木　シチューで喜んでる場合じゃないでしょ！　……何度も言ったけど、全然、聞いてくれないし。

江里奈が坂木に近づいて、

江里奈　……私、分からないけど、すぐに問い合わせた方がいいってことなんですよね？
坂木　だと思いますけど。
江里奈　だったら聞いてみましょうよ。
坂木　え？
江里奈　山岸さんの指示を仰がなくてもいいじゃないですか？　坂

木さんがすれば。
坂木　ああ。
江里奈　そうしましょう。聞いてみて下さいよ。
裕香　待って待って。
江里奈　なんですか？
裕香　いやあ……。
江里奈　孤立しちゃったら、困るじゃないですか。
裕香　じゃあさ、とにかく、山岸さんを呼んで来ようよ。で、みんなで相談して……。
江里奈　だけど、山岸さんじゃダメなんでしょ？
南　おい、江里奈。
江里奈　なに？
南　お前、首突っ込むなって。
江里奈　どうして？
南　色々、みんな、考えてるんだから。
江里奈　みんな？　みんなって誰？
南　いや……。
江里奈　私もここに隔離された患者なんだけど。
南　そうだけどさ……。
江里奈　皆さん、のんびりし過ぎじゃないですか？
裕香　（笑って）江里奈さん、あなた、来てまだ二週間でしょ？
江里奈　それがなにか？
裕香　いやあ、知らないんだから、色んなこと。
江里奈　ええ？　新しく来た私たちには発言権ないんですか？
裕香　そんなことは言ってないですけど。
江里奈　そういうことでしょ？
裕香　違うって。
浩宇　おいおい、揉めたらいかんって。

美帆　いやいや、裕香さん、今のはそう聞こえるで。それはおかしいわ。
浩宇　メイファンも参加するなって。
美帆　なんでだ？
裕香　（ナオに）悪いけど、ナオちゃん、山岸さん呼んで来て。
ナオ　はあ。
裕香　みんなで話し合おうって言ってるって。
江里奈　私は言ってませんけど。
裕香　いいから。お願い。
ナオ　はい……。

と、ナオは出て行く。

浩宇　あれ？　暁明は？　あいつもおらんでないか？
南　あの人、最近、外で見かけないですよね？
浩宇　知らんけど、家にこもって記憶ノートばっかり書いとるわ。
裕香　じゃあ、美帆ちゃん、あなたお願い。
美帆　わちか？
裕香　うん、呼んで来てくれる？
美帆　なんでわちなんだ？
裕香　なんでって？
美帆　……裕香さんの魂胆は分かっとるで。江里奈さんだけ残して、皆で一斉に攻撃するつもりでないのか？
南　どういう想像力だよ？
美帆　江里奈さん、ボコボコにされますよ。
江里奈　それは大丈夫。
浩宇　メイファン、そんな子だったか？
裕香　ほら！

美帆　もう……シャオミンの家ってどこだ？
浩宇　光善寺の裏にある青い屋根の。
美帆　光善寺？
南　建物が崩れちゃってるお寺あるだろ？
美帆　えっと……。
南　蓮池小学校の手前を左に曲がる。
美帆　蓮池小学校？
南　すぐそこ。あるだろ？
美帆　ああ、そこを越えて左。
南　手前を左。
美帆　ええ？
南　ああ、もうじゃ、一緒に行くよ。（裕香に）行ってきます。
裕香　すみません。
坂木　いやいや、だったら南さんが呼んでくれればいいでしょ。
南・美帆　（顔を見合わせて）ああ。
坂木　美帆さん、行く必要ないし。
江里奈　美帆ちゃんの言う通り、私を一人にしたいのかも。（笑いながら）うわ、ボコボコにされちゃう。
裕香　冗談はやめてよ。
江里奈　……。
南　いや、ついでに道を教えてあげようと思って。
裕香　どうでもいいから、早く。
南　ああ。
坂木　だけど、だとしたら……小学校越えてから曲がった方が早いですよ。
南　え？　どうして？　手前でしょ？
坂木　越えるんです。
南　越えたら道なんかないじゃないの。

坂木　それがね、倒れてる大木あるでしょ？　あれを伝うと上に出られるんです。光善寺の入口に出ちゃうんですよ。
浩宇　ああ、わちもあそこ登るわ。
坂木　ですよね。。
南　あんなところ無理だよ。
坂木　全然です。美帆さんなら簡単に登れます。
南　嘘だって。
坂木　ホント、断然近いですから。
南　いやいや……。
坂木　分かりました。ついてきて下さいよって……危ない、僕まで一緒に行くことになりそうだったじゃないですか？
南　なにその一人相撲？
坂木　……。
裕香　早く。
南　（美帆に）行こう。
美帆　江里奈さん、すぐに戻るで。

と、南と美帆は出て行く。
裕香は江里奈に、

裕香　江里奈さん……ここはね、これまで山岸さんを中心にしてうまくやって来たの。
江里奈　はあ。
裕香　坂木さんも知ってるでしょ？
坂木　それは分かってますけど……。
江里奈　けど、どうしてリーダーが山岸さんなんですか？
浩宇　あの人は保健局の局員だったでなあ。ここの担当で。
江里奈　それが理由ですか？

裕香　……籾山君に聞いてみてよ。他の隔離地域ではね、もっと悲惨だったりするの。こんなに仲良くやれてるところはないの。
江里奈　それが山岸さんのおかげなんですか？
裕香　私はそう思ってる。
坂木　裕香さんは山岸さんに甘いですから。
裕香　はあ？
坂木　個人的な気持ちがあるし。
裕香　違うって。
江里奈　ああ、そういうことですか。
裕香　（江里奈に）何も知らないくせに黙っててよ。
江里奈　はあ？
裕香　ホント腹立つわ。
江里奈　え？　今、腹立つって言いました？
浩宇　おい。
裕香　江里奈さん、あなた、なんなの？
江里奈　なにって？
裕香　ここを乱すだけ乱してさ。
江里奈　乱す？　私がですか？
裕香　そうでしょ？　南さんのことだって。あの人ホント楽しみにしてたのに。
江里奈　個人的なことにまで口出さないで下さいよ！
浩宇　揉めたらいかんって。
裕香　（無視して）江里奈さんが来てからね、おかしいのよ。せっかく一年、うまくやって来たのに。
江里奈　チヤホヤされなくなっちゃいましたもんねえ。
裕香　なにそれ？
江里奈　女性一人で大層大事にされてたのに。
裕香　そんなこと言ってないでしょ？　本当にボコボコにしたいわ。

浩宇　ストップ、ストップだわ！

浩宇が止める。

浩宇　……裕香さん、これじゃ、メイファンの言う通りでないか。
裕香　だって江里奈さんが……。
浩宇　だってでない！

裕香はため息をついて、

裕香　……知りません、もう。
浩宇　どこ行くんだ？　今から話し合うんだで。
裕香　私は結構です。皆さんで勝手に決めて下さい。山岸さんの悪口で盛り上がって下さいよ。
坂木　ちょっと、裕香さん……。
裕香　うるさい！

裕香は出て行ってしまう。

江里奈　なんか……すみません。……悪いの、私ですかね？
浩宇　いや。ただな、江里奈さんもちょっとだけ勘違いしとるで。
江里奈　勘違い？
浩宇　うん。裕香さんは個人的な理由だけで言っとったんではないで。
江里奈　……。
浩宇　山岸さんは確かに頼りないけど、リーダーとしていい面もあったんだわ。あれは黙って人の話を聞くで。だで、皆が認めて来たんだわ。

江里奈　ああ。
浩宇　ままま。大体な、人が揉める一番の原因は勘違いだで。勘違いだけはいかんでなあ。
他　……。
浩宇　何だ？
坂木　いやあ、浩宇さんが……ねえ？
江里奈 私、今はそれを言うべきじゃないと思って飲み込んでます。
坂木　ああ。
浩宇　なんだ？　言いたいことがあるなら言え。
江里奈　いや、私がここに来た夜の……。
浩宇　ああ、あのことか？
江里奈　まあ。
浩宇　江里奈さんは気にせんでいいわ。

浩宇は優しい笑顔。

他　……ん？
坂木　いえいえ……乗り込んだ日のことですよ。江里奈さんに「勘違いです」って追い返されたことですよ。分かってます？
浩宇　分かっとるよ。
坂木　だとしたら、ちょっと発言が違う気がするんですけど。
浩宇　なんでだ？
坂木　浩宇さんの中ではどういう結論なんです？
浩宇　結論もなにもないで。あそこでわちのことを好きだと言ってまったら、大変なことになるで。江里奈さんも素直な気持ちは隠すしかないわ。
江里奈　ええ？
坂木　……あれ？　まだ勘違い進行中？

浩宇　坂木さん、やめろて。本人が目の前におるのに。
江里奈　いや、あの時もはっきり言いましたけど、本当になんとも思ってませんから。
浩宇　わちも思っとらんよ。もうあの日のことは記憶から消してますから。
江里奈　そういう意味じゃなくって。私、浩宇さんのことをなんとも……。
浩宇　おお、そうか。
江里奈　はい。
浩宇　乗り越えてくれたならありがたいで。裕香さんだってそうだったでなあ。
坂木　いや、それですけど……。
浩宇　わち、実を言うと……今、別の問題も抱えとるで。
江里奈　それはもしかして、ナオちゃんのことですか？

浩宇は窓の外を見てため息をつき、

浩宇　難しいわ、あの子は若いで。
坂木　この人、すごいですよ。
江里奈　うん。

と、山岸が箱を抱えて入ってくる。

山岸　おお……。
浩宇　ん？　ナオちゃんは？
山岸　籾山と喋ってるけど……。
浩宇　籾山君と？
山岸　いや、すぐに来ますよ。……あれ、皆は？　っていうか、裕

香ちゃんは？
浩宇　いや、ちょっと……。
山岸　話し合うんじゃないの？

山岸は中に入って来て、

山岸　（江里奈に）あの、私がなにか？
江里奈　え？
山岸　江里奈さんが俺に怒ってるって聞きましたけど。
江里奈　いや、私、そんな風には……。
浩宇　ほら、こうして勘違いは生まれるんだわ。
坂木　黙って。……山岸さん、それ……？
山岸　（少し笑って箱を見せる）早速、今日食べようと思って。これ、ホント、すごいんですよ。レトルトなのにジャガイモとか大きいままゴロゴロ入ってるし、シチュー自体にもコクがあって。これ、結構高いヤツだよなあ。

と、箱を見せる。

坂木　……そういうところですよ。
山岸　え？
坂木　今、問題になってるのは。
山岸　はあ？

山岸はレトルトを持ったまま不思議そうな顔をしている。
暗転。

第四場

それから一ヶ月経ったある日。
暁明が立ち、山岸が座っている。
テーブルには美帆が座ってノートを読んでいる。

暁明　そんなヤツおらんって大騒ぎだったで。
美帆　はい。じゃあ、次は再び山岸さんだで。また三問連続でいくで。
山岸　オッケー。今の所パーフェクトだよね？

暁明と山岸は交代。

美帆　うん。（ごそこそノートをめくって）ああ、わち、忙しいわ。
山岸　さあ、来て来て！
美帆　（ノートを見ながら）お、これいいわ、小学校二年の時の担任は？
山岸　曽根先生。
美帆　そね？　そね？……合っとる。
暁明　ピンポン！
山岸　ようし。
美帆　（別のページを開いて）続きまして……二五歳の時、どんなことをして、解雇されそうになったでしょう？
山岸　えっと……大嫌いだった澤村っていう、医系技官の悪口を言いふらしたからだよね？
美帆　さわむら？　さわむら？　合っとる。
暁明　ピンポン！　医系技官ってなんだ？
山岸　ああ、専門知識のある局員です。医師免許とか持ってて、こ

ういうヨコガワ病の対策とか仕切るんですけど……威張るんですよ、ホント。一応、キャリアの扱いなんで。
暁明　へえ。
美帆　じゃあ、最後は……高校生問題。おお、しかもとうとう恋愛問題がやってきてまったで。
山岸　おい、あんまり恥ずかしいのはやめてくれよ。
暁明　山岸さん、自分で書いたんだろ？　恥ずかしいもなにもないでないの？
山岸　いやあ、だって記憶を正確にする為だし、結構、赤裸々に書いてあるんですよ。
暁明　そりゃみんなそうだわ。
美帆　……これってわちらも書いた方がいいの？
山岸　どうだろうねえ。
美帆　いや、最近、ナオちゃん書いとるみたいだで。
暁明　まあ、元々おったメンバーは全員書いとったけどなあ。ここに残っとった年配の人たちから言われて。
山岸　最初の三ヶ月くらいは、時間まで決めて必死で書きましたよね？
暁明　うん。……ほら、で、その恋愛問題。
美帆　いくで。
山岸　うん。
美帆　ええ、高校生の時に好きだったアツミちゃんとやっとデートしましたが、
山岸　はいはい。
美帆　待ち合わせして三十分後、あなたはいきなり「もう終りにしよう」と言いましたね？
山岸　あ、おお。
美帆　それはなぜですか？

暁明　興味津々だわ、わちも。
山岸　それは……会ってすぐにお腹が痛くなって、トイレに入ったら出られなくて。二十分も経ってしまったので恥ずかしくて……トイレを出たところで「もう終りにしよう」と言いました。
美帆　おお、正解。
暁明　ピンポン！　なんだそりゃ？
山岸　いやあ、もう嫌われたと思ったんですよ。
暁明　向こうはちゃんと待っとったんだろ？　相手も驚くでないの。トイレから出てくるのを待っとったらいきなり別れを切り出されて。
山岸　びっくりしてましたね。なんというか、キョトンとした顔っていうか。
美帆　鳩が鉄砲で撃たれたみたいな顔か？
山岸　うん。
暁明　いや、それ言うなら『豆鉄砲食らった』だわ。鉄砲で撃たれたら即死でないか。
山岸　まあ、結果、「器の小さい人間は嫌い」って振られました。
二人　ああ。
暁明　けど、山岸さん、高校時代も記憶全然大丈夫でないの。
山岸　うん……一時、結構、おかしかったんだけどなあ。
暁明　さ、じゃあ、わちの番だで。
美帆　もういいだろ？　シャオミンも問題ないでないか？
山岸　そうだよねえ。暁明さんが不安だっていうから、これやってるのに。
暁明　明らかに変な感じがしとったんだわ。それに、わちのエピソードは結構いいのが詰まっとるで美帆ちゃんも問題出しとって楽しいだろ？
美帆　つまらんわ。シャオミン、自慢話ばっかりだで。

暁明　さあ、来い！
美帆　ええ……赤ちゃんの時、どうしてあなたを見に近所から人が大勢来たでしょうか？
暁明　生後三ヶ月で完全に首が座ったでだわ。自由自在に頭を動かせたらしいでね。こんな子はおらんって大騒ぎだったらしいで。
美帆　（淡々と）はい、次。……小学校の運動会、ゴールした時、全体が笑いに包まれました。なぜですか？
暁明　三年生だわ。リレーのアンカーだったんだけど。一位でゴールしたの。けど、手を振り過ぎて手前でバトンがピューって空中に飛んでってまったんだわ。だで、一位なのに失格。そんなやつおらんって大騒ぎだったで。
美帆　はい。……もういいだろ？
暁明　まだあと一問残っとる。
美帆　うっとうしいわ。答える時、書いてある以上に喋るで。
暁明　記憶を確かめとるの。
美帆　「そんなヤツおらん」とか邪魔なんだわ。
暁明　そんなこと言うなら、浩宇のノートを読んでみろよ。あいつも自分に都合のいいことばっかり書いとるで。
山岸　読まなくても想像できますね、それ。
暁明　女にモテた話ばっかりだで。
美帆　ガンジビトは押しが強い人多いで。
山岸　ああ。
暁明　おい、美帆ちゃん……それ、差別でないか。
美帆　わちもガンジだで差別にならんだろ？
暁明　そうやって分けることが差別なんだわ。
美帆　シャオミン、一々、うるさいで！
山岸　ほら、美帆ちゃん、最後の問題。
美帆　うん。

暁明　いいで、自慢話にならん問題出してくれたら。
美帆　（めくりながら）そんなエピソードないで……あ、これならいいか？　最近の話だわ。ええ、ヨコガワ病に感染したって分かった時、あなたが最も傷ついた言葉はなんだったでしょう？
暁明　……。
美帆　ほら。
暁明　ああ、なんか言われた記憶あるわ。
美帆　それを答えるんでないか。
暁明　うん、覚えとる、傷ついたのは覚えとる気がする。……え？　誰に言われたって書いてある？
美帆　ええ？　医者だわ。
暁明　医者？　医者？　……うそ……全然出てこん。
山岸　ど忘れですか？
暁明　（真顔になって）医者って……検査した人？
美帆　さあ、それは書いてないけど。
山岸　もう答え教えてあげたら？
美帆　ああ……「ガンジの人だから感染した」って言われた。
山岸　うわあ、ひどいですねえ。それ医者ですか？
暁明　……。
美帆　なんだ？
暁明　答え聞いても出てこん。
二人　はあ？
暁明　なんていうの、絵が浮かばんのだわ。
美帆　シャオミン、もしかして最近の記憶が抜けとるのか？
山岸　美帆ちゃん、不吉なこと言ったらダメだって。そういうことありますよ。
暁明　その辺りの問題もう一つ出して。
山岸　大丈夫ですよ。

暁明　いや、いいで。お願い。
美帆　（ページをめくって）ここに送られて来た日かな、これ……自己紹介の時に、あなたのコメントに「そんなこと言うヤツはおらん」と、皆が大笑いしました。なにを言いましたか？
暁明　うん。
山岸　暁明さんの好きな、そんなヤツおらんシリーズじゃないですか。
暁明　そうだわなあ。

暁明は薄ら笑いを浮かべて黙っている。

美帆　……おい、ホントか？
暁明　やっぱりないわ。その辺りの記憶が完全に抜けとる。
美帆　斑点はどうなっとる？
暁明　え？　ああ……。だけど、わち場所が場所だで。
山岸　大丈夫ですって。なんでもありませんって。

と、笑っていると籾山が顔を出す。

籾山　すみません！
三人　うわ。
籾山　（息を切らせて）浩宇さん、来ました？
山岸　いや、来てないけど。
籾山　（後ろに）来てないって。
美帆　誰？
籾山　ナオちゃんです。
暁明　入って来たら。

と、籾山とナオが入ってくる。
ナオは手にはノートを持っている。ナオも息が切れている。

暁明　どうしたの？　慌てて。
籾山　いやあ、坂木さんの家に集まって色々と対策を練ってたんです。これからどうするかっていう。
暁明　はあ？　全員で？
籾山　はい。
美帆　え？　裕香さんも？
籾山　もちろん。
暁明　なんだ？　わちらを呼びに来たのか？
籾山　いや、話し合いは終わりました。
三人　はあ？
美帆　じゃ、何しに来たんだ？
籾山　問題はその後だったんですよ。
ナオ　……逃げてきたんです。浩宇さんが、とにかく私と二人になろうとするんで。
三人　ああ。

籾山はなぜか興奮している。

籾山　話し合い終わって、ナオナオが坂木さんの家を出たら、すぐに浩宇さんが出て行って……だから僕もすぐに後を追いました。そしたら案の定、外でしつこくされてて。ね？
ナオ　ええ、いい加減素直になれって……。
暁明　お前が気づけって話だわなあ。
籾山　ナオナオすごい嫌がってて。
美帆　あれ？　籾山さん、ナオナオって言ったか？

暁明　聞き違いだわ。
籾山　（興奮したまま）だからね、僕は、手を引いて、走り出しちゃったんです。浩宇さんが「待て」って言って追いかけてきて。僕とナオナオは逃げて。
美帆　言ったって。
暁明　いやいや。
籾山　……だから二人で走って。蓮池から新田を抜けて、途中でつまずいて、僕が支えて、また必死で走って。俺たち、泥だらけになりながら、それでも走って、逃げ切れたと分かった時、泥のついた顔で見つめ合って笑って。
山岸　青春映画の描写いいから。
暁明　だいたい、まったく泥だらけになっとらんし。
山岸　でも、浩宇さん、そんな風ならさ、ここにも探しに来るんじゃないの？
ナオ　そうですけど……。
籾山　逆に盲点でしょ？　それにここなら皆さんいるから。
暁明　坂木さんたちのとこに戻ったら？
籾山　向こうはそれどころじゃないんですよ。すっごい深刻ですし。しかも揉めてばっかりで。坂木さんめちゃくちゃ怖いし、南さんはすぐに江里奈さんを攻撃するし。
暁明　まあ、それは……。
山岸　じゃ、ここ、いたらいいよ。
ナオ　すみません。
籾山　よかったね、ナオナオ。
美帆　はっきり言ったで。
暁明　認めるわ。

と、二人は端に座る。

暁明　だけど、ひどいでなあ。坂木さんたち、山岸さんをのけもんにして。
山岸　僕はリーダー失格みたいですから。
ナオ　なんで裕香さんまで坂木さんの味方してるんですか？
山岸　さあ……この一ヶ月で急に……愛想尽かされたんでしょうねえ？
美帆　わちはそうは思わんけどなあ。
暁明　シチューばっかり食べとるでだわ、山岸さん。
山岸　そんなに揉めてるの？　あっち？
籾山　はい。とにかくここの存在を世間に知らせる為のアピールをすることには決まりましたけど。
山岸　どうやって？
籾山　もうすぐ配給の日でしょ？　だからヘリから見えるように、地面に文字を書くって。
山岸　はあ？　なんて？
籾山　結局、何に決まったっけ？
ナオ　「私たちを見捨てるな。ヨコガワ病は国の責任だ」
籾山　そうそう。
山岸　ええ？　そんなことしたら立場悪くなるじゃないの。
籾山　山岸さんが反対したら、徹底的にやってやるって言ってました、坂木さん。
山岸　反対はしないけど……。
暁明　ああ、わちらは仲良くしようって決めとったのになあ。
山岸　……二人ともいいよ。
二人　え？
山岸　いや、僕と一緒にいてくれなくても。
暁明　はあ？

美帆　わちらはガンジビトだで。肩身狭いのには慣れとるわな。
暁明　うん。
山岸　だけど、美帆ちゃんとかやりにくいだろ？　江里奈さんとも一緒に住んでるんだし。
ナオ　家でも時々言われてますよね？
美帆　わちはな、常に弱い方に味方することに決めとるで。
暁明　なんだそれ？
美帆　昔からだで。スポーツの試合とか見とっても、負けとる方を応援するんだわ。
暁明　……途中で逆転したらどうするんだ？
美帆　喜んだ瞬間に、今度は反対の応援に回って悔しがる。
暁明　忙しいでなあ。
山岸　絶対に爽快感を味わえないじゃないの？
暁明　だわな。常に応援しとる方が負けるで。
美帆　そうそう。……シャオミンだってこっちにおるでないか。
暁明　わちにははっきりとした理由があるで。山岸にさんについていく。なぜかと言うと、この人が担当だった時……あれだわ。あれだでだわ。あれがあったで。
美帆　ん？
暁明　……なんでだ？　なんかあったんだわ。あれ？

と、慌てて自分のノートをめくり出すが、

山岸　やめて下さいよ。大丈夫ですって。ど忘れですって。
暁明　うん……。
籾山　やっぱりおかしいんですか？　記憶。
美帆　違うわ。そもそも頭悪いんだわ。
暁明　（立って）失礼なこと言うな。

暁明は出て行こうとする。

美帆　どこ行くんだ？
暁明　いやあ、ちょっと家に戻って……確認しようと思って。
美帆　は？
暁明　斑点を。
籾山　え？　色も変わったんですか？
山岸　違うよ。勘違いだよ。
美帆　そう言いながら、坂木さんのとこ行ったりして。
暁明　美帆ちゃん、あんたは嫌味しか言えんのか？
ナオ　でも、ポルトチョコ余ってましたよ。
暁明　ええ？　うわ、ホント？
ナオ　はい。
暁明　食べたいでなあ。ま、確認したら戻ってくるわ。大木伝ったらすぐだで、わちの家は。
美帆　……。

と、暁明は出て行く。

ナオ　大丈夫なんですか？
山岸　平気だよ。
美帆　大げさなんだわ、シャオミン。
山岸　あれ？　ナオさん、そのノート……。
ナオ　そうです。
美帆　わちも書こうかなあ。
ナオ　（嬉しそうに）だけどね、これはちょっと違うんです。ね？
籾山　うん。

ナオ　……私はね、これから先のことを想像して書いてるんです。
美帆　ええ？
籾山　いいアイデアだと思わない？　僕、ここを担当してた時から思ってたんだよ。ここにいる人たちって、どうしても振り返るばっかりになっちゃうでしょ？　だからナオナオと相談して。
山岸　いやいや、それ意図が違っちゃってるだろ？
籾山　ええ。
ナオ　籾山さん、ナオナオやめて下さい。
籾山　え？　どうして？
ナオ　どうしてって……。
籾山　可愛いだろ？
ナオ　ええ……。

と、そこに坂木がやって来る。
手作りの大きな旗を持っている。頭にはハチマキ。
手には袋を持っている。

山岸　あ……。

アピールするように山岸の前で旗を整える。
旗には『私たちは国の被害者！』という文字。
その旗を立てかけて、

坂木　（笑って）なんですか？
山岸　なにって？
坂木　いや、何か言いたそうだから。
山岸　別に……。
坂木　（自慢気に）いやあ、話し合いが終わったんで、一応、山岸

さんに報告しに来たんですけどね。
山岸　おお。
坂木　（袋を出して）それからこれ……分けられないもんとか箱ごと持って行ってたから。余った分、戻しといてくれる？

と、美帆に渡す。

美帆　なんでわちが？
坂木　いいだろ？
美帆　うん……（中を覗く）。
坂木　（笑って）籾山達もいたんだ？
籾山　違うんです。ここにいるのには理由があって……。
坂木　別にいいよ。
籾山　はあ。

美帆が立って、

美帆　わち、ちょっとシャオミン見てきたるわ。
籾山　え？
美帆　いや、斑点のことも気になるし。これ、ポルトチョコ残っとるで。
ナオ　戻ってくるって言ってたじゃないですか。
美帆　まあ、一応。……坂木さん、山岸さんをあんまりいじめたらいかんで。
坂木　いじめてないよ。
美帆　いじめとるで。わち、ムカついとるんだわ。

と、出て行く。

坂木　（笑って）もう、嫌だなあ。山岸さんは弱い人を味方につけるから。
山岸　はあ？　なに言ってるの？
坂木　そうでしょ？
山岸　（笑って）大体さ、美帆ちゃんのどこが弱い人なの？
坂木　そりゃ、病気でこんな所に隔離されてますから。
山岸　いやいや、全員そうじゃないの。
坂木　しかもガンジビトでしょ？
山岸　関係ないだろ？
坂木　裕香さんの時だってそうだったじゃないですか。ここに来た時、旦那に手ひどく裏切られてすっごい落ち込んでて、そういう弱味に付け込んで。
山岸　違うよ。
籾山　あ、ナオナオ、オレも違うからね。
ナオ　は？
籾山　弱みに付け込んでるんじゃないから。
ナオ　今はそんなこといいでしょ？
籾山　え？
ナオ　いや、ほら……。

山岸は少しだけ苛立って、

山岸　（坂木に）お前、ホント、なにしに来たの？
坂木　だから報告ですよ。
山岸　裕香ちゃんは？
坂木　家に帰ったんじゃないですか。
山岸　そう。

坂木　まあ、裕香さんも賛成してくれましたけど。まあ、あの人の旦那さん、元々国を訴えてた人でしたからね。
山岸　うん。
坂木　うんって、何をするのか知ってるんですか？
籾山　あ、一応、簡単には伝えました、僕達が。
坂木　とりあえず明日までに皆で文字を書きますから。だから今夜は徹夜ですよ。
山岸　ふうん。
坂木　（笑って山岸に）どうせ反対なんでしょ？
山岸　別に……いいよ。好きにやれば。
坂木　いいんですか？
山岸　いいよ。
坂木　でも、積極的に賛成ってことじゃないんでしょ？
山岸　積極的もなにも……お前たちが話し合って決めたんならいいんじゃないの？
坂木　いじけてるんですか？
山岸　違うけど……え？　だから何しに来たの？
坂木　しつこいなあ。だから報告だって言ってるでしょう？
山岸　じゃ、もういいじゃないの。
坂木　えええ？　意見くらい言って下さいよ。
山岸　いやあ、そりゃ、そんなことしても意味はないと思うけど。
坂木　ほうほうほうほう。
山岸　だってさ、ヘリの操縦士がそれを見たとして、報告してくれるのかどうかも分からないし。
坂木　ほうほうほうほう。
山岸　報告してくれても、そのまま無視されて終わるだけだろ？
坂木　そんなことは僕だって分かってますよ。じゃあ、何にも言わないんですか？

山岸　……そんなことやっても心証悪くなるだけだし。
坂木　やっぱり。相変わらずの奴隷根性ですよねえ。
山岸　なんだよ、奴隷根性って。
坂木　言いなりってことじゃないですか。病気にされても、隔離されても、見捨てられても、ありがたがって従う。奴隷根性以外の何物でもないじゃないですか？
山岸　だったらこの島から出るしかないじゃないの？　そうしないとアピールにならないよ。
坂木　そんなことしたら他の人に病気移るじゃないですか。感染者は嫌われてるのに、味方になってくれる人なんかいませんよ。
山岸　そうだよ。だから、だから黙ってるしかないじゃない。
坂木　嫌ですね。僕は絶対嫌です。

山岸は立ち上がって、

山岸　（坂木に）分かったからもう帰れよ。
坂木　ええ？　ここは山岸さんの家じゃないんですから、自由ですよ、僕の。
山岸　じゃあ、俺が帰るよ。
坂木　待って下さいよ。
山岸　なに？　好きにすればいいって言ってるじゃないの。意味なく絡むなよ。
坂木　なんですかそれ。
山岸　そうだろ？　お前さ、さっきからうるさいんだよ。
坂木　（驚いて）はあ？　うるさいってなんですか？
籾山　ちょっと、二人共やめて下さいよ。

坂木は感情的になって……。

坂木　誰のせいで、誰のせいで僕がヨコガワ病になったと思ってるんですか！
山岸　はあ？
坂木　答えて下さいよ。
山岸　……いいよ、俺で。
坂木　いいよってなんですか？
山岸　お前はそう言って欲しいんだろ？
坂木　そんなことじゃないんですよ！
山岸　……はあ？
坂木　違うなら違うでいいんです。だけどね、僕だってまだまだやりたいこともあったんです。しかも僕たち役人だったんですよ。なのに病気になったらこんな風に裏切られて。だったら、だったら山岸さんも、せめて、もっと怒って下さいよ。僕と同じように怒って下さいよ！　そしたら許せるんですよ、山岸さんを許せるんです。
山岸　……怒ってるよ。
坂木　怒ってないでしょう？　シチュー食べて笑ってるだけでしょう？　僕ね、一緒に働いてたときから、引っかかってたんです。山岸さんの曖昧さが引っかかってたんですよ。この一ヶ月だってそうでしょ？　皆から責められて、リーダーから降ろされて、なのに何にも言わない。不満そうな顔する訳でもなく、淡々として……何なんですか！

山岸は離れて、

山岸　分からないの。……俺には分からないの。
坂木　……はあ？

山岸　……本当なんだよ。本当にどうしたらいいのか分からないの。ヨコガワ病……これ、明らかにあのアカヤネのせいだと思うよ。責任あるよな、国に。

坂木　ありますよ。

山岸　そこまでは分かるの。でもね、それからどうしたらいいのかが分からないんだよ。裕香ちゃんの旦那さんのように、はっきりと声をあげられない。……なんでだろ？　臆病だからか？　諦めちゃうんだよ。受け入れちゃうんだよ。

坂木　受け入れちゃダメなんです。

山岸　どうするの？

坂木　だから怒るんじゃないですか。笑ってる場合じゃないんです。配給のシチューを喜んで食べてる場合じゃないんです。

山岸　笑わない？

坂木　笑えないでしょう？

山岸　喜んでシチューも食べない？

坂木　そうですよ。

山岸　怒り続けるの？　ずっと？

坂木　そうですよ。

山岸　そうやって死んでいけってこと？

坂木　……。

山岸はなぜか爽やかに、

山岸　いや、屁理屈を言うつもりもないんだよ。俺は自分では何にも分かってないの。……お前に不愉快な思いをさせたなら謝るよ。俺のせいでお前が感染したのなら謝るよ。……けど、それもね、きっと本心からじゃないよ。だって、だって分からないんだからさ……。

坂木もやや落ち着いて、

坂木　……じゃあ、裕香さんのことは？
山岸　はあ？
坂木　それも分からないんですか？
山岸　なに？
坂木　山岸さん、明らかに好きでしょ？　だったらはっきりすればいいじゃないですか？
山岸　（笑って）好きってなんだよ。中学生じゃないんだから。
坂木　一緒でしょう？
籾山　それは坂木さんの言う通りです。山岸さん、好きっていう気持ちにね、中学生も大人も関係ないんですよ。
山岸　なにお前たち。
籾山　ナオナオもそう思うだろ？
ナオ　いやあ……。
坂木　一年経つんですよ。なんでそのままにしておくんですか？　周りから見てて、明らかじゃないですか、裕香さんと山岸さん。
山岸　……それだって……俺には分からないから。自分の気持ちに自信が持てないんだよ。
坂木　なんですか、それは。
ナオ　……特殊ですもん。
籾山　え？
ナオ　私、山岸さんが言ってること分かります。これだけの人しかいなくて、いつ死ぬか分からない……こんな場所で、本当の気持ちなんて判断できないですよ。
山岸　うん……。
ナオ　シマのないシマウマみたいなもんですよ、私たちは。

坂木　ナオちゃん、詩人発言やめてって。
籾山　どういう意味？

南が入ってくる。

南　……あれ？　皆さん、ここにいたんですか？　あ、ナオちゃんも。
ナオ　ああ。
南　坂木さんもこんなところで何を？
坂木　……色々準備を。
籾山　なんですか？
南　いやあ、浩宇さんが。

ナオと籾山は驚いて立ち上がる。

籾山　え？　やっぱり？　来ました？
南　うん……来たっていうか、蓮池小学校の前にいる。
ナオ　そこじゃないですか？
籾山　大丈夫だよ。ナオナオには俺がついてるから。
南　いや、ここにくることはないと思うんだけど……。
山岸　どういうこと？
南　いやあ、坂木さんの家を出て、裕香さんと江里奈と、それぞれ家に帰ろうとしてたんですけど……蓮池小学校の前でね、浩宇さんと美帆さんが言い合いしてるのを見かけたんですよ。
他　ええ？
南　それで……。
山岸　あれ？　美帆ちゃん、暁明さんのところに行くって。
ナオ　途中で会ったんですかね？

籾山　うん。
坂木　言い合いって？
南　最初は分からなかったんですけど、どうやら美帆さんが「ナオちゃんのこと勘違いするのやめろ」って言ってて。「そういう風だから、おばちゃんにも離婚されたんだろ」って。
坂木　……浩宇さんの離婚、そういうことだったんですね。
南　まあ、だから俺たちが間に入って……。
山岸　平気なんですか？
南　まだ裕香さんと江里奈が一緒になって説得してますけど。
坂木　二人共勘違いされた人たちですからねえ。
ナオ　あ、美帆さんも高校生の時、勘違いされたって。
坂木　そうだそうだ。
籾山　じゃあ、全員か？
坂木　けど……あれは、あれはかなりの強敵ですよ。
ナオ　私も何度も直接言ったんですけど……納得してくれませんでしたから。
南　まあ、一応、今は黙って聞いてるみたいだけど。全員で言ってるから、とにかく勘違いだってことを。
ナオ　え？　じゃあ、私も行った方がいいんですかね？
籾山　危ないよ。ナオナオはここにいて。
ナオ　ええ……。
南　（奥を見て）あれ？

と、江里奈が入ってきて……。

江里奈　どうも。あ、ナオちゃん。（南に）皆に話したの？
南　うん。
ナオ　説得終わったんですか？

江里奈　うん。
籾山　浩宇さんは？
江里奈　なんとかね、了解してくれたみたいです。

皆が歓声をあげる。

他　おお。
坂木　いやいや、ここまで盛り上がることじゃないでしょ？
他　ああ。
坂木　だけど、分かってくれたんですね？
江里奈　ええ、まあ……。
山岸　よかったじゃないの。
江里奈　ですかねえ。
山岸　どうしたんですか？
江里奈　いやあ……。
他　え？
江里奈　それが勘違いだってことをコンコンと言ってたらね、浩宇さん、突然、泣き崩れちゃって。
他　はあ？
南　……泣き崩れるって？
江里奈うん、本当にそうなの。言葉通り、崩れる、いや、崩れた？
南　どういうことだよ？
江里奈　「分かった」って言った途端、うわーって号泣して……紙細工みたいにフニャフニャって崩れていって。
他　ええ？
江里奈　ああ、泣き崩れるってこういうことかって……つくづく思ったもん、私。やっぱり言葉って、できるべくして出来てるのね？

ナオ　はあ。
南　そんなこといいよ。
籾山　（嬉しい）え？　失恋で泣いてるってことですか？
江里奈　いや……「これまで自分は全部勘違いしてたのか」って。
坂木　そんな根本的なことまで？
江里奈　はい。ホント、泣いてはしゃっくりして、泣いてはしゃっくりして……。
南　だからそんなこといいって。お前さ、色々多いんだよ。必要ないこと喋るなよ。
江里奈　ごめんなさい。
南　一言多いんだって、いつも。
江里奈　うん……一々揚げ足取らないでよ。
南　揚げ足なんか取ってないだろ？
江里奈　取ってるじゃないの。
南　揚げ足を取るっていうのはね、些細な言い間違いとかを、本質と関係ない所で指摘したりすることだろ？
江里奈　知らないわよ。
南　言葉がどうとか言うなら、正確に使えよ。
籾山　あれが揚げ足取りだよね？
ナオ　黙って。
江里奈　申し訳ありませんでした。
坂木　待って下さいよ。浩宇さんの話でしょ？
江里奈　はい。まあ、とにかくそういうことです。
籾山　ナオナオ、今がチャンスかも。
ナオ　え？
籾山　行ってさ、トドメ刺そうよ。
山岸　籾山、お前、可哀想なことやめろって。もう分かったって言ってるんだから。

籾山　……。
ナオ　え？　今はどうなってるんですか？
江里奈　裕香さんと美帆ちゃんが……抱き起こして家に連れて行った。
坂木　そっか……。
南　お前はどうしていかないの？
江里奈　誰かが報告しないとダメでしょ？
南　いつもそうなんだよ。面倒なことやらないし、お前。
坂木　もういいでしょ？
江里奈　……。

間。

山岸　えっと……で、これ、坂木……？
坂木　は？
山岸　どういうことになってるの？
坂木　今から準備しますから。配給置き場の地面に文字を書いて、ヘリが来たらその周りに集まって抗議します。
山岸　そう。
坂木　さ、みなさん、やりますよ。
山岸　だけどさ……大きい紙とかに書いた方がいいんじゃないの？
坂木　いやいや、山岸さんはやらなくていいですから。
山岸　ああ……。
坂木　さ、皆さん、動きましょう。

と、坂木は出て行く。
暗転。
暗闇の中。

ヘリコプターが飛んでくる音。窓の外には小さな明かりが見える。
そして……どんどんヘリコプターは近づいてくる。
配給物資を落としたらしくドンという音をさせ、やがて遠ざかって行く。

第五場

ヘリの音が微かに残っている。
部屋のカーテンは閉まっている。
黒いジャージ姿の美帆と裕香が座っている。

裕香　（明るく）おかしいねえ。ここに集まってくれって坂木さん言ってたのに。
美帆　……。
裕香　オシマイの儀式って変でしょ？
美帆　……。
裕香　やることはね、お葬式と一緒。
美帆　うん。
裕香　だけど、ちゃんとしたお葬式はできないからさ。こんなのを葬式と呼びたくないって年配の人たちが言い出して、オシマイの儀式とか呼ぶようになった……らしいんだけど。
美帆　らしいってなんだ？
裕香　うん……記憶ノートにそう書いてあったから。
美帆　裕香さんの？
裕香　うん。
美帆　え？　裕香さん、やっぱりおかしいのか？
裕香　なにが？
美帆　いやあ、さっきも言っとっただろ？　記憶の……。

裕香　そんなことといいの。私が言いたいのはね、オシマイの儀式もここの文化だってこと。
美帆　……。
裕香　だから、きちんとやってあげよ。
美帆　……。
裕香　ね？　美帆ちゃん。ちゃんとポルトチョコもお供えしてあげるんでしょ？
美帆　けど、シャオミン、食べたがっとったで。
裕香　……。
美帆　間に合わんかったでなあ。
裕香　すぐに行ったとしても間に合わなかったかも知れないじゃないの。
美帆　けど、前にもわちがシャオミンの分、食べてまったで。
裕香　……。
美帆　無意識でひどいことやってまうんだわ、わち。
裕香　それは甘えでしょ？　誰だってそうやって人に甘えないと生きてられないもん。しかもこんな場所にいるんだし、私たちは。

美帆はちょっと考えて、

美帆　わち、ここに来る時不安で……。隔離地域ではガンジの人たちがひどいいじめに合っとるって噂を聞いとったし。
裕香　ああ。ここはそんなことないでしょ？
美帆　まあ、ハオちゃんもおったし。だけどハオちゃん、問題もある人だったで不安もあって。
裕香　暁明さんもガンジビトだったから、安心したんだよね？
美帆　かなあ。
裕香　……残念だけど、後になってからしか分からないの。自分の

気持ちなんて分からないの。
美帆　うん……。
裕香　だから、元気出して。
美帆　はい。……裕香さんは大丈夫か？
裕香　え？
美帆　いやあ。
裕香　……うん、今日の朝、家で記憶ノートを読んでみたんだけど、私も暁明さんの症状と似てるんだよねえ。抜けてるのはね、どうやらここに来てからしばらくの記憶みたいで。
美帆　……。
裕香　大丈夫よ。

浩宇が入ってくる。やはり黒いジャージを着ている。

浩宇　おお。
美帆　ハオちゃん……。
裕香　坂木さんたちは？
浩宇　もう来ると思うけど……また、ちょっと言い合いしとるで。
裕香　え？
浩宇　坂木さんと山岸さん。配給の時に入っとった、あの通達というか、今後の計画に対して。
裕香　ああ。まだまだ先の話でしょ？
浩宇　さあなあ。
裕香　こういう場所を廃止してどうするつもりよ？
浩宇　どっかに収容施設でも作るんだわ。（笑って）こんな、都合のいい廃村なんてそうそうないで。
裕香　大体さ、そんな施設、どこに作るの？
浩宇　（自嘲気味に）そういうもんは全部ガンジとか、そういうと

こだわ。……やめて欲しいわなあ。きっとみんな、揉めながらもこうやって、なんとかやって来とるのに……。メイファン、どうしたんだ？

美帆　え？

裕香　暁明さんにチョコを食べさせてやれなかったって。

浩宇　ほうほう。

裕香　ほうほうじゃないんですよ。浩宇さんを家に送っていってたせいで届けられなかったんですから、美帆ちゃん。

浩宇　ほうほう。

ナオと江里奈が入ってくる。同じく黒い格好。

江里奈はどことなく沈んでいる。

江里奈　……ご苦労様です。

他　はーい。

裕香　他は？

江里奈　あ、来てます。

ナオ　……。

浩宇　どうした？

ナオ　なんでもありません。分かってるんですけど、条件反射で、浩宇さん見るとビクッとしちゃうんです。

浩宇　悪かったわなあ。ナオちゃん、ごめんな。

ナオ　いえ。

浩宇　わち、そんなに皆に迷惑かけとったのか？

美帆　覚えとるだろ、それは。

浩宇　うん、はっきり。ただ、わちの記憶はわちの主観だで。基本的にモテとった記憶しかないで。

江里奈　都合いいですねえ。

と、それぞれ座ったりする。

浩宇　どうした？　江里奈さん、元気ないでないか？
江里奈　こんな時に元気な方がおかしくないですか？
浩宇　それもそうだけど……それにしても。
江里奈　大丈夫です。
浩宇　（江里奈から離れて）違うで。もう勘違いはせんで。
江里奈　ええ。
浩宇　（ナオに近づいていることに気づき）違うで。

坂木、山岸、南、籾山が入ってくる。
山岸は手に箱を抱えている。

坂木　うわあ、全員揃うと結構な人数ですねえ。（山岸に）僕でいいですか？
山岸　ああ。
坂木　だったら座って下さいよ。

坂木を除いた他のメンバーも隙間を見つけて座る。

山岸　ああ。これどうしよう？
坂木　持っといて下さいよ。
浩宇　なんだそれ？
山岸　いや、暁明さんの家にあったもので、一緒に埋めてあげるものを。
浩宇　おお。埋めるのは日和山だわな？
坂木　そうです。……ええ、今から皆で「高台暁明」さんのオシマイ

の儀式をやろうと思います。
他　はい。
坂木　これまでと同じように光善寺で行いますので、これから皆で移動して……。
江里奈　浩宇さん、いいんですか？
浩宇　え？
江里奈　いや、ガンジの人って、どうなってるのかなあと思って。お葬式のやり方とか。
南　ガンジの人って言っても日本人ですもんねえ？
江里奈　分かってるけど、ほら、宗教的なこととか。
浩宇　元々の国もバラバラだったで、一緒だわ一緒。
裕香　……ここのやり方でいいんじゃないの。ここの文化。隔離文化。
籾山　名前悪いですよ。地名がないからダメなんですよ。
ナオ　え？　蓮池村でしょ？
籾山　それはここが廃村になる前の地名だろ？
裕香　じゃあ、新蓮池。新蓮池文化よ。だから、オシマイの儀式も「新蓮池方式」でいいんじゃないの？
ナオ　言いにくいですよ、新蓮池。
南　だけど、計画通り進められたら……新蓮池の歴史、短かすぎるよ。
浩宇　ここが潰されるの、せめてわちらが死んでからにして欲しいわなあ。もう嫌だわ、移動させられるのは。
裕香　心配しなくてもね、それは大丈夫よ。そんなに長くないわよ、私たちも。
籾山　（立ち上がって）なんでそんなこと言うんですか。治るかも知れないんですから。
坂木　けど……僕たちのことも現実味を帯びて来ましたし……。

山岸　おい、坂木、そんな話はいいよ。
坂木　本当のことでしょ？　死んだんですから、暁明さんは死んだんですから。
他　……。
江里奈　……あの……。

皆が江里奈を見る。

江里奈　いや、いいです。
南　なんだよ、それ。言いたいことがあるなら最後まで言えよ。中途半端なんだよ。
江里奈　ごめんなさい。
坂木　江里奈さん、言って下さいよ。
江里奈　ああ……。

江里奈は意を決して、

江里奈　分かってます。今から暁明さんをちゃんと弔わないとダメだし……こんな時にこんな発言するべきじゃないとは思うんですけど。
他　？
江里奈　私ね……どうやらおかしいんですよねえ。
他　はあ？
南　え？　おかしいってなんだよ？
江里奈　（笑いながら南に）今日の朝、起きたら……記憶ないことに気づいたのよ。
南　へ？
江里奈　部分的に。

裕香　どういうこと？
山岸　勘違いだったりしますよ。
江里奈　はい。皆さんみたいにノートもつけてないから詳しくは分からないんですけど、（南を指して）この人が隔離される日のことは覚えてるんです。で、自分が検査で引っかかってからのこともちゃんと覚えてるんです。
南　お前、なに？　じゃ、お前は何を覚えてないんだよ？
江里奈　だからさっきナオちゃんに言ったんだけどね。
ナオ　あ……そういうことだったんですか？
美帆　なに？
ナオ　いや、どうして私は南さんと一緒に住んでないんだろって。
他　ん？
江里奈　いや、知ってるんです。好きな人が出来て、だから南と暮らせないって言ったこと。好きになった人は、南の友達で、それも覚えてるんですけど……。
南　それで全部だろ？
江里奈　いや、好きになったことが思い出せないの。大体、私さ、沢田さんのこと、むしろ嫌ってたもん。
南　は？　沢田だったの？　お前が好きになった人って沢田だったの？
江里奈　うん……あなたが発病して、私を支えてくれたのかなあ？
南　知らないよ。まあ、あいつはずっとお前のこと好きだったみたいだから……。
江里奈　……でも、とにかく、全然覚えてないのよ。そのことも。
他　……。
南　おい……ホントに覚えてないの？
江里奈　うん。
南　本当に？

江里奈　うん。
南　坂木さん、これ……？
坂木　ええ……。
浩宇　斑点はどうなっとるんだ？
江里奈　（笑って）私、背中にあるから自分で見えないんですよ。
浩宇　見ますよ、ほら。
南　浩宇さん、ほらじゃないでしょ？……（江里奈に）おい、来いよ。

と、手招きをして出て行く南。

江里奈　あ、いいですか？
坂木　はあ。

皆が心配そうにする中……。

坂木　どうなってるんですかね？　こんな立て続けに……。
山岸　まだ分からないだろ？
坂木　だけど、おかしいでしょ？
浩宇　暁明もホント突然死んだでなあ。
坂木　（やや慌てて）皆さん、他には大丈夫ですか？　異変があったらすぐに言って下さいよ。
美帆　裕香さん……。
裕香　なに？
美帆　さっき。
裕香　いいって。
美帆　いや、（皆に）裕香さんも記憶がおかしいって。
他　え？

裕香　美帆ちゃん、いいんだって。
山岸　え？　嘘？　え？　裕香ちゃん、どういうこと？
裕香　うん、ないんですよねえ。
他　ええ？
裕香　（照れたように）しかもね、私の場合はね……どうも、斑点の色も変わってる。
美帆　はあ？　さっきはそんなこと言わんかったでないか？
裕香　まあねえ。昨日の夜ね、見てみたら完全に紫色になってた。
他　……。
山岸　なんで？　なんですぐに言わないんだよ？
裕香　え？　誰に？
山岸　え？
裕香　あ、そっかそっか。私、山岸さんと仲良かったんですよね？
他　？
裕香　いや、私の場合は……ここに来てからの記憶が曖昧で……。
浩宇　あんたは何を言っとるんだ？
裕香　最近の記憶はあるの。でも、山岸さんとあんまり喋ってなかったでしょ？　その前は仲良かったってことなんですよね？
坂木　仲いいも何も……僕たちいつも噂してたんです。二人はできてるって。完全にできてるって。
浩宇　そうだわ。わちも思っとったで。裕香さんがわちへの気持ちを断ち切って、山岸さんを選んだんだって。
ナオ　私も最初、二人は夫婦なんだって思ったくらいですもん。
坂木　そうですよ。僕、はっきり言って焼きもちやいてましたから。だって女性は裕香さん一人だったのに、こんな、こんなぼうっとした山岸さんにばっかり裕香さん甘えるし。
裕香　うん……記憶ノートにもやたら山岸さんのこと出て来るの……。担当の人が優しくてまだよかったと思ったとか。ほら、最

初は私がここに来た時は、山岸さんたち担当だったからさ。で、その人がこっちに来て、マスクとった顔を初めて見たとか……。後は……山岸さんと進展しなくて、もどかしいとか。

山岸　……。

裕香　（山岸を見て笑って）あ、覚えてないから、今はそんなこと思わないんだよ。

南と江里奈が戻ってくる。

籾山　どうでした？

南　うん……。

ナオ　斑点、どうだったんですか？

江里奈　ナオちゃん、私の斑点、色変わってるんだって。

ナオ　え？

南　紫色でした。いや、紫っていうか、黒くなってました。

籾山　裕香さんもです。

江里奈　え？

籾山　裕香さんも、裕香さんも記憶おかしくて、色も変わってるって。

江里奈　そうなんですか……。

裕香　どうもねえ、そうなんだよねえ。

二人は顔を見て笑い合う。

江里奈　……なんか、ごめんなさいね。

裕香　は？

江里奈　いや、私、ここに来て、ブツブツ言っちゃって。

裕香　やめてよ。あれくらいなんでもないでしょ？

江里奈　けど、かき回したんでしょ？
裕香　あれは……ただの友達同士の喧嘩レベルでしょ？

籾山が皆に向かって、

籾山　……そうです。あのね、この蓮池は珍しいって上司も言ってました。他の隔離地域ではね、同じ被害者なのにも関わらず、もっと深刻に揉めてるんです。まあ、その方が国にとっても都合良くって。
坂木　だからアレだもんな。人数増やさないんだもんな。
浩宇　どういうことだ？
坂木　一つの隔離地域の人数増えて、それがまとまって国への批判になったら厄介でしょ？　僕たちね、そういう不安を抑え込む仕事ばっかりやってましたから。
浩宇　だであれか？　施設作ってバラバラに収容しようとしとるんか？
山岸　かも知れませんねえ。

浩宇は立ち上がって、

浩宇　腹立つでなあ。ホント腹立つでなあ。勘違いしとるんだわ。誰が方針を考えとるのか知らんけど、勘違いしとるで。
他　……。
浩宇　……だったらそうしたらないかんわ。絶対に死なずに、どんなことがあってもバラバラにならず、何があってもめちゃくちゃ仲良ようして……。
裕香　（山岸に）山岸さん、ずっとそう言ってたんでしょ？
山岸　え？

裕香　私のノートに書いてあったよ。
江里奈　……。
裕香　私たちには時間がないけど、ま、ナオちゃん達にはまだ可能性あるんだし。
ナオ　どうしてですか？　皆でやりましょうよ。
籾山　そうだよね。
ナオ　シマはなくても、私たちシマウマなんですよ。
坂木　また出たよ。
ナオ　いや、ヨコガワ病だろうが、なんだろうが、こうして普通に生きてるじゃないですか。
坂木　ああ、そういう意味だったの？
ナオ　私、だからノートにこれからのことを想像して書いてるんです。ほら……。
籾山　ナオナオ、読んでみてよ。あ、でもあれか？　個人的な未来を書いてたら、恥ずかしい？
ナオ　別にいいですよ。
籾山　（照れて）僕が登場してるかも知れませんけど……。

と、ナオはノートを開いて読む。

ナオ　ええと……「今日、新しい担当者が来た。とても親身になって私たちのことを考えてくれる人で嬉しい。どうやら背が高く素敵な男性っぽい」
籾山　あれ？　僕じゃないよね？
ナオ　違います。
籾山　あ、ごめん。

ナオは再び読み始める。

ナオ　ええ、「今日、寝る時に初めて涙が出なかった。皆のおかげで私も立ち直ってきているらしい。……今日、江里奈さんが南さんと仲直りをした。これからは南さんと江里奈さんは一緒に住むらしい。……今日はすごくうれしい情報があった。ビックニュース！　ヨコガワ病の原因が解明されたらしい。ぶた草の花粉に含まれる成分で特効薬ができるという。だから皆で鍋パーティーをした。江里奈さんは南さんからもらったぶた草の花束を大事そうに持っていた。ウフフ。……今日は記念日だ。とうとうヨコガワ病が完治し、私たちはここを離れることになった。嬉しいけど寂しいという複雑な気持ち。……今日、さっき家に帰ってきた。実は美帆さんと一緒に沖縄旅行に行っていたのだ。アレ以来、ずっと友達付き合いが続いている。一生親友でいようね。今日はデートだった。私はこの人のことを好きなんだと思う。それにしても私も飲み過ぎた。反省。……今日は久しぶりに皆さんに会った。すっごく嬉しかった。裕香さんの花嫁姿はとても素敵だったけど、披露宴の途中、暁明さんと浩宇さんが、喧嘩して台無しだった。原因は浩宇さんが、隣の女性が自分を見ていると言い張ったからだ。皆で必死で止めた。最後の山岸さんのスピーチはモゴモゴ言っててよく分からなかったけど、とっても幸せだった」

山岸　ああ！

山岸が叫んで持っていた箱を投げる。

他　！

山岸も驚いている。

皆も驚いて見ている。

山岸　あ、ごめん……うわうわうわ、暁明さんの物なのに……ごめんなさい、暁明さん。

と、山岸は箱を拾う。

南　山岸さん、どうしたんですか？

山岸　いや、なんでかな。急に……。ナオちゃん、ごめんね。

ナオ　え？　いや……。

山岸　なんかね、俺ね、いっぱいいっぱい。

山岸は坂木を見て、

山岸　そうだよな。これ、怒らないとダメなんだよな……。

坂木　え？

山岸　いや……怒らないとダメなんだよ。

山岸は立ち上がって、

山岸　なあ？　お前が配給の時に振ってた旗ってどこにあるの？

坂木　え？　家に……。

山岸　そう……。

坂木　何を？

山岸　……じっと座ってられないんだよ。この気持ちをね、なんとかしないと……なんとかしないと。

坂木　……。

山岸　裕香ちゃん……。

裕香　え？
山岸　今度はちゃんとするから。
裕香　はあ？
山岸　暁明さんのオシマイの儀式、坂木頼むわ。
坂木　なにを言ってるんですか？
山岸　いや、俺も責任取らないと。あ、これチョコと一緒に。

と、山岸は箱を美帆に渡す。
そして皆に軽く会釈をしてから、さっさと出て行ってしまう。

坂木　山岸さん！
南　……え？　どこ行ったの？
坂木　さあ。

皆はぽかんとしている。

坂木　え？　どうしたらいいんですか？　呼んできましょうか？
南　戻ってきますよ。
坂木　そりゃそうでしょうけど。
籾山　僕、見てきますよ。……あ、ナオナオ、後でノートの続き……。

と、籾山は出て行く。

坂木　山岸さんって……ホント、分からないんですよねえ……。
浩宇　やりたいようにやらしたれ。臆病な男が、せっかく動いたんだで。
坂木　……。

裕香は江里奈に向かって笑って、

裕香　記憶なくてもさ、人ってあんまり変わらないんだね。
江里奈　何がですか？
裕香　いやあ、私ね、その、山岸さんに惹かれたことをちゃんと覚えてないんだけど……今もね、いいなあって思ったもん。
浩宇　分かるわ。わちもそうだで。どうしてもまだ皆がわちに熱い視線送っとる気がするで。
美帆　ハオちゃん、いい加減にするべき。
浩宇　ああ。
南　それくらいの勘違いだったらいいんじゃないですか？
浩宇　は？
南　その方が幸せでしょ？
浩宇　まあなあ。
坂木　……。

美帆が立ち上がって、

美帆　おい、坂木さん。
坂木　へ？
美帆　どうするんだ？　わち、シャオミンに早くチョコ渡したりたいで。
坂木　うん……。
美帆　光善寺だろ？　大木伝ったらすぐだで。
坂木　そうだけど……。
美帆　わち、先に行っとるで。

美帆は出て行く。

ナオ　あ、じゃあ……私も。

ナオも後を追う。

浩宇は立ち上がって、

浩宇　え？　わちらもだろ？

南　ああ、なんか立ち上がれなくて。

裕香　（立って）早くしないとね……私と江里奈さん……ねえ？　きっと時間がないし。

江里奈　はあ。（南に）あなた、ごめんね。

南　え？

江里奈　いや、なんか……。

南　……。

江里奈　けど、ホント、沢田さんのこと覚えてないの。だって私、本当に嫌いだったんだもん、あの人。

南　うん。

江里奈　他はちゃんと覚えてるのよ。あなたとコーヒー豆のことで喧嘩したこととか。

南　（遮って）俺、いるから。もし……お前になんかあっても、最後は俺、横にいるから。

江里奈　うん……。

南　坂木さん。

坂木　ええ……いや、山岸さん、何をしにいったのかなと思って。

南　だから分かりませんって。籾山君が見に行ってくれてるし。

浩宇　わちも行くで。（笑って見回しながら）今日はツノギ虫もおらんでなあ。

南　……あ、あれですかね？
浩宇　なにが？
南　いや、山岸さん、一時記憶おかしいって言ってたでしょ？
浩宇　ああ。
南　ツノギ虫に刺されて、しばらく高熱出てたじゃないですか？　あれでウイルスの活動が鈍ったとか。
裕香　あれ？　私、なんか看病してた気がする。

と、籾山が入ってきて、

籾山　……。
浩宇　悪い悪い。今、行くで。
籾山　違うんです。……旗が。
他　え？
籾山　海の上で旗が……旗が振られてます。
浩宇　海の上？
南　どういうことですか？
坂木　……。
籾山　小さなボートの上で、大きく、大きく。……叫び声と一緒に。
他　ええ？
籾山　どうします？
南　いきましょう。

と、皆はバラバラと出て行く。

坂木　……。

坂木は動けず、取り残される。

カーテンを開ける。
日差しが部屋に差し込む。
しばらく景色を見ている坂木。
突然、身体を動かして……。

坂木　……うん……まだ……まだ……生きてるもんなあ……。

と、首を傾げて出て行く。
突然明かりは消える。
おしまい。

©2009　by Hideo Tsuchida
禁無断複写、転載。

■上演に関するお問合せは…
有限会社キューカンバー
〒605-0942　京都市東山区蒔田町 549-3 藤ビル 2F
Tel◇075-525-2195 Fax◇075-525-2197
E-mail◇info@cucumber-m.com　URL◇http://cucumber-m.com